

## 基礎分野

授業科目	論理学	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	金子 満					
学習目的 (ねらい)	物事を論理的に思考し客観的に評価できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	論理学とは何か、論理学が扱う推論				講義	2
2	命題とは、命題論理の形式、否定について				講義	2
3	「かつ」の論理法則「または」の論理法則「ド・モルガンの法則」				講義	2
4	「ならばの構造」「対偶をとる」「ならばの連鎖」				講義	2
5	「ならばの構造」「命題論理の方法」				講義	2
6	「ならばの連鎖の問題」「命題論理の方法」「基本的な真理関数」				講義	2
7	「基本的な真理関数」「三段論法の型」				講義	2
8	「三段論法の型」				講義	2
9	「推論の型」「述語論理」				講義	2
10	述語論理（「すべて」の論理構造、「存在する」の論理構造				講義	2
11	論理の応用 1. 接続の論理				講義	2
12	論証について（推論と推理、演繹法と帰納法）				講義	2
13	テキストを読む技術				講義	2
14	レポートを書く技術				講義	2
15	試験				講義	2
成績評価の方法	レポート					
テキスト及び参考文献	1. プリント配布					
授業に関する留意点	論理学を学びを通して、論理的に内容を整理し順序立てて考えること、そしてわかりやすく説明することを身に着けることを目指しましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業						

## 基礎分野

授業科目	情報科学	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	稲田 浩一					
学習目的 (ねらい)	コンピューターシステムの構成やコンピューターネットワークの概要について学習し、合わせてインターネットでの情報収集機能や基本的ソフトウェア（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の活用など、実用的な情報処理術の習得を目指す。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	情報科学の基礎				講義	2
2	コンピューターの歴史、コンピューターの機能				講義	2
3	情報科学と看護				講義	2
4	コンピューターの基本操作				講義	2
5	ワープロソフト Word1				講義	2
6	ワープロソフト Word2				講義	2
7	情報処理				講義	2
8	ハードウェアとソフトウェア				講義	2
9	表計算ソフトExcel1				講義	2
10	表計算ソフトExcel2				講義	2
11	表計算ソフトExcel3				講義	2
12	インターネットでの情報検索				講義	2
13	統計的データ処理				講義	2
14	プレゼンテーションソフトPqwer Point1				講義	2
15	プレゼンテーションソフトPqwer Point2				講義	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. プリント配布					
授業に関する留意点						
実務経験のある教員による実践的授業						

## 基礎分野

授業科目	心理学	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 通年
担当教員	清原 浩						
学習目的 (ねらい)	看護学生という視点にたった上で、看護師として必要な心理学の基礎について理解、把握することを目指す						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	感覚、知覚の心理					講義	2
2	記憶の心理					講義	2
3	感情、動機の心理					講義	2
4	知能・人格の心理					講義	2
5	発達の心理（1）					講義	2
6	発達の心理（2）					講義	2
7	集団・社会の心理、医療場面での人間理解の展開					講義	2
8	心理アセスメントと面接（その1）					講義	2
9	心理アセスメントと面接（その2）					講義	2
10	カウンセリングと心理療法					講義	2
11	カウンセリングと心理療法					講義	2
12	行動する人間の理解					講義	2
13	行動する人間の理解					講義	2
14	行動する人間の理解					講義	2
15	終講試験						2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	1. 看護学生のための心理学						
授業に関する留意点							
実務経験のある教員による実践的授業							

## 基礎分野

授業科目	人間工学	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 前期
担当教員	湯ノ口 万友						
学習目的 (ねらい)	人間が生活するために必要な物・空間環境を作り上げていくための科学である人間工学に関する技術や知識を習得する。看護者が人間を援助するときの障害（腰痛など）から自分自身を守り、安全な看護を提供できることを目指す。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	人間工学とは（講義の目的と進め方）					講義	2
2	人間工学の歴史と看護との関わり、人間機械系					講義	2
3	人間の感覚器官Ⅰ					講義	2
4	人間の感覚器官Ⅱ					講義	2
5	人間の感覚器官Ⅲ					講義	2
6	人間の諸特性と姿勢・動作					講義	2
7	人間工学とボディメカニクスⅠ					講義	2
8	人間工学とボディメカニクスⅡ					講義	2
9	人間工学とボディメカニクスⅢ（中間試験）					講義	2
10	人間工学の応用（仕事と人間工学）					講義	2
11	環境と人間工学					講義	2
12	環境と人間工学および骨と筋肉のビデオ観賞					講義	2
13	看護と情報とコントロール					講義	2
14	看護の安全と人間工学					講義	2
15	終講試験・まとめ					講義	2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	1. イラストで学ぶ 看護人間工学 東京電機大学出版局						
授業に関する留意点							
実務経験のある教員による実践的授業							

## 基礎分野

授業科目	教育学	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 前期
担当教員	金子 満					
学習目的 (ねらい)	知識、モラル、成長、援助（ケア）など、教育の含み持つ複合的な性格を理解することで、看護と並ぶ人間関係を基礎とした教育的態度について学ぶことを目的とする。なお、授業内容は原則を示したものであり、クラスの実態に応じて順序を変えたり、内容に変更を加えたりすることがあるので、その点了解しておいてもらいたい。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	オリエンテーションー視点の多数性を得るために。				講義	2
2	教育の目的ー知識獲得と人格形成の援助としての教育				講義	2
3	成長と教育ー放任か、指導か				講義	2
4	童話等に見る子どもの成長ーグリム童話、ジブリ…				講義	2
5	絵画に見る人間の成長ーデュラー、ブリュゲル、ベラスケス…				講義	2
6	他者教育から自己教育へー人間形成としての教育				講義	2
7	自分自身を見てみようー「私」とは誰か				講義	2
8	周囲の人々を見てみようー他者は理解できるのか				講義	2
9	教育の歴史から（1）ー18世紀以前の子育て				講義	2
10	教育の歴史から（2）ー公教育制度の誕生				講義	2
11	教育の歴史から（3）ー年齢意識の誕生と世代の発生				講義	2
12	知識は常に改造され、構造転換するー知る楽しさ				講義	2
13	よい教師とは??ーそして、もちろん悪い教師とは??				講義	2
14	「言わないでおいたこと」（ポール・ヴァレリー）				講義	2
15	振り返りと試験				筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験（自筆ノート、配布プリントのみ持込可）					
テキスト及び参考文献	テキストは使用しない。参考文献については講義で、幅広い領域に渡って適宜紹介する。					
授業に関する留意点	各自がそれぞれの過去を振り返りつつ、人と関わることの大事さを自覚してほしい。					
実務経験のある教員による実践的授業						

## 基礎分野

授業科目	集団力学	単位	1	時間	30	開講年次	2年次 前期
担当教員	野上 真						
学習目的 (ねらい)	集団力学の基本的な理論を理解し、それらを手がかりに日常生活における集団と個人の相互作用の中で生まれる心の動きについて論理的に考察できるようになる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	集団力学の特色					講義	2
2	集団への参加と社会化					講義	2
3	多数派の影響と少数派の影響					講義	2
4	集団の意思決定					講義	2
5	チームワークと生産性					講義	2
6	チームワークと安全					講義	2
7	リーダーシップ① (リーダー行動の特色)					講義	2
8	リーダーシップ② (状況に応じたリーダー行動)					講義	2
9	リーダーシップ③ (リーダに対する部下の働きかけ)					講義	2
10	リーダーシップ④ (リーダシップトレーニング)					講義	2
11	リーダーシップ⑤ (リーダシップトレーニング)					講義	2
12	偏見といじめ					講義	2
13	葛藤解決					講義	2
14	総まとめ					講義	2
15	試験					筆記試験	2
成績評価の方法	本講で解説した理論の理解およびグループワークへの主体的な取り組みを評価する。 (出席態度45%、試験55%)						
テキスト及び参考文献	テキストは特になし。適宜「おススメの本」を紹介しますので読んで下さい。						
授業に関する留意点	理論が日常生活とどう関連しているか考えながら聞くことが理解の助けになります。						
実務経験のある教員による実践的授業							

## 基礎分野

授業科目	倫理学	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前期
担当教員	永谷 敏之					
学習目的 (ねらい)	人間の行為や道徳について理解し、人間の存在や価値について考えることができる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	イントロダクション 授業内容の説明「倫理学とは」				講義	2
2	よりよく生きるを考える「掃除で心を磨く」①				講義	2
3	よりよく生きるを考える「掃除で心を磨く」②				講義	2
4	よりよく生きるを考える「掃除で心を磨く」③				講義	2
5	よりよく生きるを考える「掃除で心を磨く」④				講義	2
6	よりよく生きるを考える「人生を豊かにする生き方の発見」①				講義	2
7	よりよく生きるを考える「人生を豊かにする生き方の発見」②				講義	2
8	よりよく生きるを考える「人生を豊かにする生き方の発見」③				講義	2
9	よりよく生きるを考える「グルメ時代の日本人」「日本食ブームの中での『食』の崩壊」①				講義	2
10	よりよく生きるを考える「グルメ時代の日本人」「日本食ブームの中での『食』の崩壊」②				講義	2
11	よりよく生きるを考える「もっと緑を！」（環境問題）①				講義	2
12	よりよく生きるを考える「もっと緑を！」（環境問題）②				講義	2
13	よりよく生きるを考える「もっと緑を！」（環境問題）③				講義	2
14	よりよく生きるを考える 視野を拡大しよう（ヨーロッパ事情）ベルリン				講義	2
15	よりよく生きるを考える 視野を拡大しよう（ヨーロッパ事情）ミュンヘン				講義	2
成績評価の方法	レポート提出					
テキスト及び参考文献	1. 加藤尚武：現代倫理学入門、講談社学術文庫 他プリント配布					
授業に関する留意点						
実務経験のある教員による実践的授業						

## 基礎分野

授業科目	カウンセリング論	単位	1	時間	15	開講年次 1年次 前期
担当教員	山下みどり					
学習目的 (ねらい)	カウンセリングの理論ならびに技法を学ぶことを通して、人の心を理解する力、傾聴力、そして自らの考えを表現する力を養うことを目指す。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	自分を知ること、他者を知ること				講義	2
2	カウンセリングとは				講義	2
3	共感と純粋性				講義	2
4	沈黙とリード 繰り返し				講義	2
5	明確化				講義	2
6	対決と直面				講義	2
7	支持				講義	2
8	終講試験・まとめ				講義	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	やさしく学ぶカウンセリング26レッスン 金子書房					
授業に関する留意点						
実務経験のある教員による実践的授業	臨床心理士としてスクールカウンセラーの業務に携わり、豊富な経験をふまえ基礎的知識を講義・演習を行う。					

## 基礎分野

授業科目	人間関係論	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	西原 誠司					
学習目的 (ねらい)	人間関係を円滑に保つ必要性和方法について学び、人間を人との関係で生き成長する存在として捉えることができる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	はじめに 先送りされた自我の形成と「第2の誕生」				講義	2
2	人類の誕生—人間とは何か— ～ひとりみんなのために、みんなはひとりのために～				講義	2
3	人間関係の歴史①				講義	2
4	人間関係の歴史②				講義	2
5	人間関係の歴史③				講義	2
6	近代的人間関係形成				講義	2
7	現代の人間関係を理解するために～理解度チェック～				講義	2
8	現代における人間関係—過労死の「秘密」				講義	2
9	赤ちゃんの誕生と母性看護学				講義	2
10	現代社会の人間関係—科学的管理法と人間関係論—				講義	2
11	死のレッスン キューブラーロス①				講義	2
12	キューブラーロス 生きるというレッスン②				講義	2
13	脳梗塞からの再生・免疫学者多田富雄の闘い				講義	2
14	言葉遊びで短所を笑う—過労死しないために				講義	2
15	終講試験				筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	テキストは特になし。適宜プリントを配布します。					
授業に関する留意点						
実務経験のある教員による実践的授業						

## 基礎分野

授業科目	社会学	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 前期
担当教員	山田 晋						
学習目的 (ねらい)	人間の生活の基盤である社会の構造やその中における人間行動・家族の機能、構造を理解し、社会と人間との関係について学び、多様な社会での幅広いものの見方ができる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	社会学を学ぶ—開講にあたって					講義	2
2	社会学とは何か？何を学ぶか？					講義	2
3	現代世界の現状と課題—いま、世界は—					講義	2
4	命は地球より重い(1)—生命・戦争・平和について考える					講義	2
5	命は地球より重い(2)—平和&南北問題について					講義	2
6	世界の貧困と飢餓 —こども達の現実—					講義	2
7	国際保健医療の現状と日本人の支援					講義	2
8	現代日本の現状を問う —いま、日本は？—					講義	2
9	日本の社会・生活問題と社会病理					講義	2
10	貧困拡大社会と高齢者問題					講義	2
11	高齢者の介護・看護・医療					講義	2
12	障がい者問題と人権					講義	2
13	児童問題の現状と課題					講義	2
14	立ち遅れる男女共同参画と女性問題・男性問題					講義	2
15	愛について					講義	2
成績評価の方法	筆記試験（レポート内容・提出状況が評価となる）						
テキスト及び参考文献	1. テキストなし。資料配布します。						
授業に関する留意点	毎時間ごとにレポート提出						
実務経験のある教員による実践的授業							

## 基礎分野

授業科目	外国語	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 前期
担当教員	西原 薫						
学習目的 (ねらい)	国際化時代、言語を学ぶと同時に「文化」の学習を行い発信型コミュニケーションの基礎力を身につける。また、看護を行う上で、必要となる医療英語の基礎的知識を習得する。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	課の説明する第1課					講義	2
2	第1課 会話、語法、CD					講義	2
3	第2課 会話、語法、DVD					講義	2
4	第3課 会話、語法					講義	2
5	第4課 会話、語法、DVD					講義	2
6	第5課 練習、会話、語法、DVD					講義	2
7	小テスト、練習、語法、DVD					講義	2
8	第6課 会話、語法、DVD					講義	2
9	第7課 語法、練習、DVD					講義	2
10	第8課 語法、VIDEO					講義	2
11	第9課 語法、VIDEO					講義	2
12	第10課 語法、VIDEO					講義	2
13	第11課 語法、練習					講義	2
14	練習、語法、会話					講義	2
15	終講テスト					講義	2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	「Talking with Your Patients English」で学ぶ看護英語 成美堂						
授業に関する留意点							
実務経験のある教員による実践的授業							

## 基礎分野

授業科目	国際文化論	単位	1	時間	30	開講年次	2年次 前期
担当教員	森 孝晴						
学習目的 (ねらい)	21世紀のいま、誰にとっても国際的視野は国際人として必要である。文化比較を中心にして広く世界文化を読み解く力を養う。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	授業ガイダンス 国際文化(論)とは？					講義	2
2	アメリカを知る意味 アメリカとは？					講義	2
3	アメリカの歴史 アメリカの女性。					講義	2
4	アメリカの女性 暴力社会・戦争国家アメリカ					講義	2
5	階級社会アメリカ アメリカの冷たさと暖かさ。					講義	2
6	日本とアメリカの深い闇					講義	2
7	鹿児島とアメリカ					講義	2
8	鹿児島とアメリカ					講義	2
9	鹿児島とアメリカ					講義	2
10	アメリカとアイデンティティ「アメリカの夢」と「成功の夢」					講義	2
11	プラグマティズム、車社会アメリカ					講義	2
12	多民族国家アメリカ、先住アメリカ人					講義	2
13	先住アメリカ人(DVD)					講義	2
14	先住アメリカ人(DVD)					講義	2
15	終講試験・まとめ					筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	DVD 資料配布						
授業に関する留意点							
実務経験のある教員による実践的授業							

## 基礎分野

授業科目	健康とスポーツ	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 通年
担当教員	高岡 綾子					
学習目的 (ねらい)	余暇時間にスポーツに親しみ、豊かな人生を送ることができる基礎的知識を身につけ、医療従事者として知っておくべき健康づくりの理論と基礎を習得する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	オリエンテーション, コミュニケーションシート提出, 正しい姿勢について				講義	2
2	ストレッチの基本① 正しい立ち姿勢① リズム運動①				演習	2
3	ストレッチの基本② 正しい立ち姿勢② リズム運動②				演習	2
4	アフターマッスルトレーニング 基本の4つ エアロビック① グループパイン, Vステップ Aステップ他				演習	2
5	幼児向けレク せんろは続くよどこまでも (宿題) 発表会に向けてエアロビック (ワンツービート) ①, 班分け				演習	2
6	ストレッチの基本 (就寝前) コアの筋肉4つの説明 エアロビック発表に向けて②				演習	2
7	ストレッチの基本 (目覚め) エアロビック発表に向けて③				講義	2
8	コアトレーニング エアロビック発表に向けて④				講義・演習	2
9	妊娠期における運動療法 (マタニティビクス) について①				講義	2
10	妊娠期における運動療法 (マタニティビクス) について②				講義	2
11	妊娠期における運動療法 (マタニティビクス) について実技①				演習	2
12	発表会に向けてエアロビック④ グループ練習・まとめ				演習	2
13	発表会に向けてエアロビック⑤				演習	2
14	筆記テスト				講義	2
15	実技試験 (発表会)				講義	2
成績評価の方法	筆記試験・実技試験					
テキスト及び参考文献	体幹を鍛えるコアトレ スタートブック 学研					
授業に関する留意点						
実務経験のある教員による実践的授業						

専門基礎分野

授業科目	解剖生理学 I	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 前期
担当教員	後藤 哲哉 西田香織 皆元 謙治他					
学習目的 (ねらい)	からだの支持と運動、情報の受容と処理、外部環境構造と機能、生殖について学び、看護の土台としての基礎的知識を深める。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	人体の構造と機能について、解剖生理学の歴史				講義	2
2	人体とは、細胞の構造、エネルギー代謝				講義	2
3	細胞膜の構造と機能				講義	2
4	細胞の増殖と染色体				講義	2
5	構造と機能からみた人体（構造、機能、体液平衡）				講義	2
6	栄養と消化と吸収①口腔・咽頭・食道の構造と機能				講義	2
7	栄養と消化と吸収②腹部消化管の構造と機能、膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能				講義	2
8	呼吸と血液の循環①呼吸と呼吸器の構成				講義	2
9	呼吸と血液の循環②心臓の構造、心臓の拍出機能、末梢循環系の構造				講義	2
10	呼吸と血液の循環③血液、血液の循環とその調整、リンパ・リンパ管				講義	2
11	体液の調節と尿の生成①腎臓、排尿路				講義	2
12	体液の調節と尿の生成②体液の調整				講義	2
13	内臓機能の調整①自立神経系と内分泌系による調整				講義	2
14	内臓機能の調整②全身の内分泌腺と内分泌細胞、ホルモン分泌の調整				講義	2
15	内臓機能の調整③ホルモンによる調整の実際、終講テスト				講義	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 新体系 看護学全書 人体の構造と機能① 解剖生理学 メヂカルフレンド社					
授業に関する留意点	1. 医学、看護学の必須基礎知識と考え、学習に励む。 2. 予習よりも復習のほうが大切であると心掛ける。					
実務経験のある教員による実践的授業						

専門基礎分野

授業科目	解剖生理学Ⅱ	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	後藤 哲哉					
学習目的 (ねらい)	からだの支持と運動、情報の受容と処理、外部環境構造と機能、生殖について学び、看護の土台としての基礎的知識を深める。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	内臓機能の調節・自立神経系				講義	2
2	内分泌系による調節				講義	2
3	内分泌系による調節				講義	2
4	体の支持と運動・骨格と筋				講義	2
5	体の支持と運動・骨格と筋				講義	2
6	下肢の骨格と筋				講義	2
7	筋の収縮				講義	2
8	情報の受容と処理・神経系の構造と機能				講義	2
9	情報の受容と処理・神経系の構造と機能				講義	2
10	脳の高次機能・脳波・睡眠・本能・情動・運動機能				講義	2
11	感覚機能・眼の構造と機能・聴覚・平衡覚・味覚・臭覚				講義	2
12	皮膚の構造機能・体温・生殖				講義	2
13	皮膚の構造機能・体温・生殖				講義	2
14	生殖・発生と老化・人体表構造				講義	2
15	終講テスト				講義	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 新体系 看護学全書 人体の構造と機能① 解剖生理学 メヂカルフレンド社					
授業に関する留意点	1. 医学、看護学の必須基礎知識と考え、学習に励む。 2. 予習よりも復習のほうが大切であると心掛ける。					
実務経験のある教員による実践的授業						

専門基礎分野

授業科目	栄養代謝学	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 後期
担当教員	福島 洋子						
学習目的 (ねらい)	私たちはどのような物質を摂取し、栄養素はどのように代謝され、どのように体に影響を与えるのか？そして私たちはどのような様な栄養素をどれだけ食べるのが適当なのか？これらの事項について理解し、評価できるように基礎的知識を学ぶ。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	人体の構成成分					講義	2
2	細胞膜の構造・細胞膜の機能					講義	2
3	DNA・RNAについて					講義	2
4	mDNA・tRNAについて					講義	2
5	ミトコンドリア・etcの働きについて					講義	2
6	栄養について 糖質					講義	2
7	糖質の代謝					講義	2
8	三大栄養素のEnergy代謝					講義	2
9	糖質の構造・分類					講義	2
10	糖質を含む食品・糖質の吸収					講義	2
11	脂質の栄養生化学・糖質の代謝異常 (DM)					講義	2
12	脂質の分類と脂肪酸					講義	2
13	脂質と高脂血症・蛋白質の構造・脂肪酸 (n-3系 n6、n-9系) の構造と食事					講義	2
14	蛋白質の分類・脂溶性ビタミン、これまでの復習					講義	2
15	終講テスト						2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	1. 新体系看護学全書2 専門基礎分野 栄養生化学 人体の構造機能2 メヂカルフレンド社 2. 糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂						
授業に関する留意点	1. 医学、看護学の必須基礎知識と考え、学習に励む。 2. 予習・復習が大切であると日々の学習に心掛ける。						
実務経験のある教員による実践的授業	管理栄養士として病院・クリニック等での栄養指導業務の豊富な経験をふまえ基礎的知識を講義を行う。						

専門基礎分野

授業科目	病理病態学	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 後期
担当教員	嶋 香織						
学習目的 (ねらい)	看護の役割を理解し、看護援助を行うため、疾病の原因や発生病理、形態と機能及び代謝の変化を原理を理解する。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	病理学とは、病因					講義	2
2	先天異常（1）					講義	2
3	先天異常（2）遺伝性疾患					講義	2
4	代謝異常・退行性疾患					講義	2
5	変性・物質沈着					講義	2
6	代謝性疾患					講義	2
7	循環障害（1）					講義	2
8	循環障害（2）					講義	2
9	循環障害（3）					講義	2
10	炎症（1）					講義	2
11	炎症（2）					講義	2
12	炎症（3）					講義	2
13	腫瘍（1）					講義	2
14	腫瘍（2）					講義	2
15	終講試験・まとめ					講義	2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野4 病理学 医学書院						
授業に関する留意点	1. 医学、看護学の必須基礎知識と考え、学習に励む。 2. 予習・復習が大切であると日々の学習に心掛ける。						
実務経験のある教員による実践的授業							

専門基礎分野

授業科目	微生物学	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 前期
担当教員	土橋 宏輝					
学習目的 (ねらい)	感染症の原因となる病原微生物の分類や特徴、感染予防と滅菌・消毒、感染防御に関わる生体反応として疫学等について学習する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	微生物学の歴史				講義	2
2	細菌の構造、代謝				講義	2
3	培地、真菌・原虫総論				講義	2
4	ウイルス総論、感染症（Ⅰ）				講義	2
5	感染症（Ⅱ）、疫学（Ⅰ）				講義	2
6	疫学（Ⅱ）				講義	2
7	疫学（Ⅲ）滅菌消毒（Ⅰ）				講義	2
8	滅菌・消毒（Ⅱ）				講義	2
9	科学療法、滅菌各論				講義	2
10	グラム陰性桿菌、復習テスト（1）解説				講義	2
11	グラム陰性桿菌、復習テスト（2）解説				講義	2
12	リケッチア、クラミジア、マイコプラズム 復習テスト（3）解説				講義	2
13	DNAウイルス・RNAウイルス（Ⅰ）復習テスト（4）解説				講義	2
14	RNAウイルス（Ⅱ）				講義	2
15	原虫、真菌各論 終講テスト				講義、筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野6 微生物学 医学書院					
授業に関する留意点	1. 医学、看護学の必須基礎知識と考え、学習に励む。 2. 予習・復習が大切であると日々の学習に心掛ける。					
実務経験のある教員による実践的授業	歯科医師として医業に携わり、豊富な経験をふまえ基礎的知識を講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	疾病論 I (呼吸・循環機能障害)	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	徳留京子 白坂望 皆元謙治 富宿明子 原田香織					
学習目的 (ねらい)	呼吸器系および循環器系の機能障害による症状と病態生理、疾患、検査と治療の基礎的知識を理解する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
呼吸器障害 (富宿・原田・皆元)	1. 呼吸機能系障害の症状と病態生理				講義	2
	2. 疾患の理解 (上気道・気管支の疾患、肺の疾患)				講義	2
	3. 疾患の理解 (胸膜疾患、縦膜疾患)				講義	2
	4. 疾患の理解 (胸部外傷、肺移植)				講義	2
	5. 疾患の理解 (伝染性疾患)				講義	2
	6. 各疾患に共通する治療・処置 (吸入療法、放射線療法)				講義	2
	7. 各疾患に共通する治療・処置 (リハビリテーション、手術療法)				講義	2
	8. 終講試験				筆記試験	1
循環器障害 (徳留・白坂・皆元)	1. 循環器の解剖と症状				講義	2
	2. 循環器の診察、検査				講義	2
	3. 虚血性心疾患				講義	2
	4. 心不全、高血圧				講義	2
	5. 不整脈、弁膜症				講義	2
	6. 不整脈、弁膜症				講義	2
	7. 心膜炎、心筋疾患等				講義	2
	8. 終講試験				筆記試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器 医学書院					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	本科目は、医師、慢性呼吸器疾患認定看護師、慢性心不全認定看護師として実務経験のある教員による授業である。					

専門基礎分野

授業科目	疾病論Ⅱ (栄養代謝機能障害)	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	富宿明子 中村彰 川島清美					
学習目的 (ねらい)	人間は、生まれてから死ぬまで体外から物質を摂取し、それを消化・吸収、合成・分解し生活力の維持や成長に必要なエネルギーの産生蓄積身体の構成成分の合成、排泄のための変換を絶えず繰り返す。この生命維持に不可欠な栄養の摂取と代謝をつかさどる器官の正常な構造と機能を理解して上で、栄養代謝機能の障害を起こす疾患を学ぶことにより、看護する上での身体的側面のアセスメント能力を養うことをねらいとする。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
糖代謝異常 (富宿)	1. 糖尿病の分類				講義	2
	2. 糖尿病の検査				講義	2
	3. 糖尿病の治療				講義	2
	4. 糖尿病の病態生理				講義	2
	5. 糖尿病性ケトアシドーシス				講義	2
	6. 終講試験				筆記試験	1
消化吸収障害 (中村・川島)	1. 消化器(歯牙・口腔含む) 構造と機能 症状				講義	4
	2. 検査・処置・治療				講義	4
	3. 手術 消化管1				講義	2
	4. 消化管2 肝臓、胆嚢、膵臓1				講義	4
	5. 肝臓、胆嚢、膵臓2				講義	4
	6. 歯牙・口腔疾患				講義	2
	7. 終講試験				筆記試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学14 歯・口腔 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	医師、歯科医師として医業に携わり、豊富な実務経験をふまえ講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	疾病論Ⅲ (生体防御機能障害)	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 後期
担当教員	後山和彦 武田 浩一郎 水枝谷 渉 三ツ野佐代子						
学習目的 (ねらい)	人間には、異物から人体を守るための生体防御機能が備わっている。また、これによって人間は健康な生活を送ることができる。この人間の生命維持に重要な役割を持つ生体防御機能について理解し、それに障害が生じた際に生じる様々な健康問題とそれに対する検査・治療を学ぶことにより、患者に生じている苦痛と、必要な看護を理解することをねらいとする。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
血液・造血 (後山・三ツ野)	1. 血液の基本～血液疾患の症状					講義	2
	2. 血液の検査・治療法					講義	2
	3. 赤血球の疾患					講義	2
	4. 白血球の疾患					講義	2
	5. リンパ球・異常蛋白の疾患					講義	2
	6. 血小板、凝固因子の疾患					講義	2
皮膚・アレルギー (武田)	1. 皮膚疾患 総論					講義	2
	2. 皮膚疾患 各論					講義	2
	3. 皮膚疾患 各論					講義	2
免疫 (水枝谷)	1. 免疫のしくみ (非特異的と特異的)					講義	2
	2. アレルギーについて					講義	2
	3. 膠原病 (自己免疫疾患) 総論					講義	2
	4. 膠原病 (自己免疫疾患) 各論					講義	2
	5. 感染症について					講義	2
	6. 筆記試験					講義	2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学4 血液・造血管器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学13 眼 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院						
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。						
実務経験のある教員による実践的授業	本科目は、医師、看護師として豊富な実務経験のある教員が授業を行う。						

専門基礎分野

授業科目	疾病論Ⅳ (脳神経・運動機能障害)	単位 1	時間 30	開講年次 1年次 後期
担当教員	富宿明子 下鶴哲郎 後藤哲哉 有川幸宏 西山圭介			
学習目的 (ねらい)	脳神経領域は人間の生存・生活が個体の内外からの刺激に応答する機能をもって営まれる。これらの機能の疾病の成立の成り立ちを理解し、それに対する検査・治療を学ぶことにより、疾病を予防し、回復を促進する視点で看護を見出していくことをなりたいとする。運動機能は日常生活行動を支える役割をもつ。疾患や症状、治療によってどのような影響を受けるか関連づけて学習していくことをねらいとする。			
授業計画				
授業内容			授業形態	時間
運動機能障害 (富宿・西山・有川)	1. 運動器の構造と機能、病状とその病態生理		講義	2
	2. 診断・検査と治療、処置		講義	2
	3. 疾患の理解 (外傷性の運動器疾患)		講義	2
	4. 疾患の理解 (外傷性、内因性の運動器疾患)		講義	2
	5. 疾患の理解 (内因性の運動器疾患)		講義	2
	6. 疾患の理解 (内因性の運動器疾患)		講義	2
	7. 疾患の理解 (内因性の運動器疾患)		講義	2
	8. 終講試験		筆記試験	1
脳神経疾患 (下鶴・後藤)	神経系総合と解剖生理		講義	2
	総論 神経病理学		講義	2
	各論 疾患・認知症・脳梗塞		講義	2
	各論 脳出血・外傷		講義	2
	各論 看護ポイント		講義	2
	各論 脳腫瘍 (レポート)		講義	2
	看護のポイントまとめ (レポート)		講義	2
	終講試験		筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院			
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。			
実務経験のある教員による実践的授業				

専門基礎分野

授業科目	疾病論Ⅴ (内部環境調節機能障害)	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 後期
担当教員	内田 洋介 松下敬亮ほか					
学習目的 (ねらい)	1. 内分泌機能障害とメカニズムとその検査・治療法について学ぶ。 2. 体液機能障害とその検査・治療法を学ぶ					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
内分泌疾患 (松下他)	1. 内分泌総論(内分泌器官の構造と機能)				講義	2
	2. 内分泌器官とホルモン機構				講義	2
	3. 症状と病態生理				講義	2
	4. 内分泌疾患の検査				講義	2
	5. 疾患の理解①				講義	2
	6. 疾患の理解②				講義	2
	7. 疾患の理解③				講義	2
	8. 終講試験				筆記試験	1
体液機能障害 (内田)	1. 腎・泌尿器の解剖生理の復習				講義	2
	2. 症状とその病態生理①				講義	2
	3. 症状とその病態生理②				講義	2
	4. 検査と治療				講義	2
	5. 疾患の理解①				講義	2
	6. 疾患の理解②				講義	2
	7. 疾患の理解③				講義	2
	8. 終講試験				筆記試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 内分泌・代謝 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 腎・泌尿器 医学書院					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	本科目は、医師として医業に携わり、豊富な経験をふまえ講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	疾病論VI (小児疾患)	単位	1	時間	15	開講年次 2年次 後期
担当教員	後山 和彦					
学習目的 (ねらい)	1. 小児看護で遭遇する看護問題・障害とその治療について学ぶ。 2. 小児とその家族に起こりやすい直面しやすい状況を知り、看護に必要な基本的な知識を学ぶ。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	感染症				講義	2
2	呼吸器、消化器				講義	2
3	消化器、血液、免疫				講義	2
4	免疫、循環器				講義	2
5	腎泌尿器、内分泌				講義	2
6	内分泌、神経・筋疾患				講義	2
7	皮膚、救急、障害				講義	2
8	終講試験				終講試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	医師として医業に携わり、豊富な経験をふまえ講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	疾病論Ⅶ (性生殖機能障害)	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前後期
担当教員	久米 浩太					
学習目的 (ねらい)	1. 女性生殖器の解剖生理について想起させ、生殖器障害の症状、病態生理、診療検査の種類と方法について理解できる。また、女性の生殖器の障害の原因や疾患および治療について理解を深め看護に活かすことができることを目指す。 2. 妊娠中の偶発性器疾患について理解し母性看護学の基礎的知識の習得を目指す。					
授業計画						
授業内容				授業形態	時間	
性生殖機能障害	1. 外陰～膣			講義	2	
	2. 子宮～子宮内膜症			講義	2	
	3. 卵管～両性卵巢腫瘍			講義	2	
	4. 卵巢がん、更年期			講義	2	
	5. STD、内分泌テスト			講義	2	
	6. 乳腺疾患			講義	2	
	7. 終講テスト			泌尿器	1	
母性疾患	1. 不妊症、不育症			講義	2	
	2. ハイリスク妊娠～出血性素因			講義	2	
	3. SLE～PIH			講義	2	
	4. PIH～			講義	2	
	5. 過期妊娠～けいれん陣痛			講義	2	
	6. 胎児の異常～			講義	2	
	7. 産褥異常			講義	2	
	8. 新生児～FHR			講義	2	
	9. 終講テスト			筆記試験	1	
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護 医学書院					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	医師として医業に携わり、豊富な経験をふまえ講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	疾病論Ⅷ (精神機能障害)	単位	1	時間	15	開講年次 2年次 前期
担当教員	佐藤大輔					
学習目的 (ねらい)	精神科看護に必要な観察力、洞察力を習得するために必要な精神科疾患の基礎的な知識を理解できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	精神障害の診断と検査の種類				講義	2
2	精神科の各種治療法 薬物療法				演習	2
3	精神科の各種治療法 精神療法				演習	2
4	精神科の主な疾患 1)脳気質性 2)症状精神病 3)アルコール依存、薬物依存				演習	2
5	精神科の主な疾患 4)てんかん 5)統合失調症				演習	2
6	精神科の主な疾患 6)気分障害 7)神経症 8)人格障害				演習	2
7	精神科の主な疾患 9)思春期、リハビリテーション				講義	2
8	終講試験				講義・演習	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 看護学テキストNICE 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり改訂第2版 南江堂 2. 看護学テキストNICE 精神看護学Ⅱ 臨床で生かすケア改訂第2版 南江堂					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	医師として医業に携わり、豊富な経験をふまえ講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	臨床薬理学	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	清水 隆雄					
学習目的 (ねらい)	将来看護師として医療に携わる場合、薬物に関する知識は不可欠である。薬理学では薬理作用を理解するための基礎的知識の習得に重点を置くが、さらに医療従事者に関わる薬物関連の多さに鑑み看護業務に必要な薬の知識の習得を目指す。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	薬理学概論：薬事法・毒劇薬・麻薬取締法				講義	2
2	総論：薬局方・薬理作用・薬理作用の機序・薬物受容体				講義	2
3	薬理作用に影響する因子・年齢・連用・併用・心理効果・心理効果 薬物動態：経口適応・初回通過効果				講義	2
4	薬物動態：吸収・分布・生体反応・排泄・生物学的半減期				講義	2
5	自律神経作用・コリン作用・抗コリン作用薬				講義	2
6	自律神経作用薬・アドレナリン作用薬・抗アドレナリン薬・アドレナリン作用薬・アドレナリン作動性神経遮断薬・自律神経節遮断薬				講義	2
7	骨格筋弛緩薬（自律神経小テスト） 局所麻酔薬				講義	2
8	全身麻酔薬・睡眠薬・抗けいれん薬				講義	2
9	抗けいれん薬・パーキンソン治療薬・麻薬性鎮痛薬				講義	2
10	向精神薬：抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬・解熱鎮痛薬				講義	2
11	抗痛風薬・抗ヒスタミン薬・強心薬・抗不整脈薬				講義	2
12	抗不整脈薬（続き）・狭心症治療薬・高血圧治療薬				講義	2
13	貧血治療薬・抗凝血薬・抗潰瘍薬・高血圧症治療薬ホルモン：糖尿病治療薬・副腎皮質ホルモン剤・消毒薬				講義	2
14	消毒薬（各論） 化学療法：ペニシリン・作用機序				講義	2
15	まとめ・終講試験				試験	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. わかりやすい薬理学 ニューヴェルヒロカワ					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業						

専門基礎分野

授業科目	治療法概説 (外科、内視鏡、放射線)	単位	1	時間	15	開講年次 1年次 後期
担当教員	中村 彰					
学習目的 (ねらい)	医療において、医師と看護師の果たすべき役割は車の車両にたとえられる。そのため、疾病回復・治癒・寛解に向けて行われる治療について十分理解し、生体に及ぼす影響や侵襲を理解することで、治療を受ける対象への適切な看護へと発展させることをねらいとした。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	外科看護の基礎				講義	2
2	外科治療の基礎				講義	2
3	感染対策 救急医療				講義	2
4	法的環境・周産期看護・外来看護				講義	2
5	術前看護・術中看護				講義	2
6	術後管理				講義	2
7	放射線治療				講義	2
8	終講試験				終講試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻7 臨床放射線医学 医学書院					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 解剖生理学、病態生理学、各疾病論の復習をして臨む。 3. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	医師として医業に携わり、豊富な経験をふまえ講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	保健医療論 I (健康支援と制度)	単位	1	時間	15	開講年次 1年次後期
担当教員	安藤 哲夫					
学習目的 (ねらい)	公衆衛生と保健・医療・福祉を支える制度のしくみについて現在に至る歴史をふまえながら理解することができる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	公衆衛生の理念				講義	2
2	健康の概念と主観的健康観				講義	2
3	プライマリーヘルスケア				講義	2
4	PHCと生命倫理				講義	2
5	レベル&クラークからの脱皮				講義	2
6	PHCにおける公衆衛生の機能				講義	2
7	公衆衛生学各論 国試プリントを参考に				講義	2
8	終講試験				終講試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康と社会保障制度[2]					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業						

専門基礎分野

授業科目	保健医療論Ⅱ (医療のあゆみと倫理)	単位	1	時間	15	開講年次 1年次 前期
担当教員	川島 清美					
学習目的 (ねらい)	1. わが国における医療のしくみと概要について理解できる。 2. 医療現場における対象の人権、自己決定権、情報公開という観点から考えることができる。 3. 保健・医療の実践の現場で問われる基本的な問題について考え、倫理観を培うことができる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	社会保障制度の発達の経緯				講義	2
2	医療と看護の原点				講義	2
3	医療観の返還				講義	2
4	現代の医療				講義	2
5	高度社会の生み出した医療				講義	2
6	医の論理と倫理				講義	2
7	保健医療の将来像				講義	2
8	終講試験				筆記試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 健康支援と社会保障[1]					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業						

専門基礎分野

授業科目	社会福祉論Ⅰ (社会保障と制度)	単位	1	時間	15	開講年次 2年次 前期
担当教員	重久 晃一					
学習目的 (ねらい)	社会保障制度の目的、機能、機能、体系、内容などについて学習し、社会保険・公的扶助・公衆衛生及び医療・老人保健などについても考察する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	現代社会と社会保障の動向				講義	2
2	社会保障の概念、目的、機能				講義	2
3	社会保障の体系				講義	2
4	社会保障の内容－所得保障、医療保障、福祉サービス－				講義	2
5	介護保障と介護保険制度				講義	2
6	所得保障制度と年金保険制度				講義	2
7	これからの社会保障制度－課題と展望－				講義	2
8	終講試験				筆記試験	1
成績評価の方法	筆記試験とレポート					
テキスト及び参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 社会福祉 医学書院					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	社会福祉士として業務に携わり、豊富な経験をふまえ講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	社会福祉論Ⅱ (社会福祉活動)	単位	1	時間	15	開講年次 2年次 後期
担当教員	重久 晃一					
学習目的 (ねらい)	社会福祉制度の現状と課題について体系的に解説する。とくに、福祉六法を中心に講義する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	私たちの暮らしと社会福祉				講義	2
2	社会福祉の法制度				講義	2
3	生活問題と福祉				講義	2
4	高齢者問題と福祉				講義	2
5	障害者問題と福祉				講義	2
6	児童問題と福祉				講義	2
7	女性問題と福祉社会, 福祉実践と医療・看護				講義	2
8	終講試験・まとめ				筆記試験	1
成績評価の方法	筆記試験とレポート					
テキスト及び参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 社会福祉 医学書院					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業	社会福祉士として業務に携わり、豊富な経験をふまえ講義を行う。					

専門基礎分野

授業科目	関係法規 I (医療と法律)	単位	1	時間	15	開講年次 3年次 前期
担当教員	安藤 哲夫					
学習目的 (ねらい)	看護に関する主な法律について学び、生活者の健康を守る制度について学習し、医療従事者の職務と役割について理解できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	保健医療法と法				講義	2
2	医療法規				講義	2
3	医師法、歯科医師法				講義	2
4	保健師助産師看護師法				講義	2
5	保健衛生法規、社会保険関連法規				講義	2
6	生活衛生法規、薬事法規				講義	2
7	社会福祉関連法規、労働関連法規				講義	2
8	終講試験・まとめ				筆記試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院 資料配布					
授業に関する留意点	1. 授業は事前学習をして、積極的に臨む。 2. 授業中は積極的に質問を行う。					
実務経験のある教員による実践的授業						

専門基礎分野

授業科目	関係法規Ⅱ (看護と医療過誤)	単位	1	時間	15	開講年次 2年次 後期
担当教員	植屋よしの					
学習目的 (ねらい)	1. 医療安全に対する考え方や知識を得て看護の役割を理解できる。 2. 組織としての医療安全のあり方と医療過誤を防ぐ責務について理解できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	医療安全を学ぶことの大切さ 事故防止の考え方				講義	2
2	看護師の法的責任				講義	2
3	医療事故・看護事故より法的責任を考える①概論 投与する業務における事件事例				講義・演習	2
4	医療事故・看護事故より法的責任を考える② 危険な医行為の観察・管理				講義・演習	2
5	医療事故・看護事故より法的責任を考える③ 療養上の世話における事故防止				講義・演習	2
6	医療事故・看護事故より法的責任を考える④ 業務領域をこえて共通する間違い 医療安全とコミュニケーション				講義・演習	2
7	我が国の医療安全の展望				講義	2
8	筆記試験				試験	1
成績評価の方法	1. 筆記試験：80点 2. グループワークへの参加状況、文献検索など学習意欲を含む)；20点					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院 2. 系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院					
授業に関する留意点	1. 教科書は必ず事前に読んで、講義に積極的に臨みましょう。 2. 参考文献、課題など積極的に読み深められるようにしましょう。 3. 基礎看護学、各疾病論等の復習をして臨みましょう。 4. 授業中は積極的に質問をしましょう。 5. レポート等は提出期日は遵守しましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業						

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	看護学概論 I	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 前期
担当教員	植屋 よしの						
学習目的 (ねらい)	1. 「看護とは何か」を学ぶことにより看護の目的・看護の対象・看護の方法とは何かを考えることができる。 2. 看護の基本概念及び看護の機能と役割を理解する。 3. 看護研究の基礎的知識・技術について学び、看護を多角的視点から捉える姿勢を養う。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	*イントロダクション：基礎看護学の位置づけ、看護の基本となる概念					講義	2
2	看護の基本となる概念①：看護とは、看護の定義					講義	2
3	看護の変遷、看護理論の変遷とその特徴					講義	2
4	看護の機能と役割					講義	2
5	看護の基本となる概念②：人間とは（統合体として、人間と環境の関係）					講義	2
6	看護の対象の理解①：生涯発達しつづける存在としての人間					講義	2
7	看護の対象の理解②：生活者としての理解、家族、集団・地域					講義	2
8	看護の基本となる概念③：健康とは、健康の定義、健康の拡大					講義	2
9	生活と健康：生活をとらえる視点、生活と疾病・障害の予防、QOL					講義	2
10	看護の提供者①職業としての看護					講義	2
11	看護の提供者②職業としての看護の発展					講義	2
12	看護における倫理					講義	2
13	看護における組織活動					講義	2
14	看護における研究					講義	2
15	まとめ・終講試験					まとめ・筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験100点満点						
テキスト及び参考文献	1. 系統別看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 2. 看護者の基本的責務 2020年度版 定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会 3. 看護覚え書 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会						
授業に関する留意点	抽象的な内容が多いので、授業中にもよく考え、参考図書を読むなど主体的に参加することを心がけてください。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ看護の基本概念及び看護の機能と役割について理解が深めらるよう授業を行う。						

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	看護学概論Ⅱ (看護倫理)	単位	1	時間	15	開講年次 2年次 前期
担当教員	植屋 よしの					
学習目的 (ねらい)	看護における倫理の具体的な内容を知り、倫理的課題について理解する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	看護倫理の基礎知識				講義	2
2	看護職に求められる倫理				講義	2
3	看護者の責任、看護専門職の役割と倫理綱領				講義	2
4	看護倫理に関する重要な言葉：①情報プライバシーと守秘義務 ②ケアリング ③インフォームド・コンセント				講義	2
5	患者の権利、アドボカシー、協力と協働				講義	2
6	看護の場で生じやすい倫理用の問題①（がんの告知の事例）				演習	2
7	看護の場で生じやすい倫理用の問題②（尊厳死の事例）				演習	2
8	終講試験				講義・演習	1
成績評価の方法	筆記試験（80％）演習の取り組み（20％）出席状況も含み総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 看護倫理（よい看護。よい看護師の道しるべ）改訂第2版 南江堂 2. 看護の基本的責務 2019年版 日本看護協会出版会					
授業に関する留意点	看護実践の現場で倫理的問題に遭遇します。重要な言葉の理解をし、原則の倫理に基づき倫理的判断を考え倫理的行動の実践につながるよう予習・復習をすること。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ看護における倫理の考え方を深められるよう授業を行う。					

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護技術 I	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 前期
担当教員	金丸綾子 西田香織					
学習目的 (ねらい)	1. 現代の技術の理論について学び、看護技術の独自性について理解する。 2. 科学的根拠に基づいて、を習得する。 3. 良質な看護実践者になるための知識・技術・態度を理解する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
金丸綾子	1. 看護技術とは何か				講義	2
	2. 環境調整技術					
	1) 療養生活の環境、病床環境アセスメントと調整				講義	2
	2) 環境調整の実際				講義	2
	3) ベッド周囲の環境整備				講義	2
	4) 病床を整える				講義	2
5) ベッドメイキング				講義・演習	2	
西田香織	3. 感染予防					
	1) 感染予防の定義				講義	2
	2) 人体の防御機能				講義	2
	3) 感染源対策				講義	2
	4) 感染経路対策				講義	2
	5) 手洗い・無菌操作・ガウンテクニック				演習	2
	4. 医療安全の考え方				講義	2
	1) 安全の意義と保障				講義	2
	2) 事故防止				講義	2
	3) 安全管理に向けての取り組み				講義	2
5. 終講試験				筆記試験	2	
成績評価の方法	講義態度、筆記試験、技術試験、提出物状況により総合的に判断する。					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I・II 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 3. 看護技術がみえる vol 1・2 MEDIC MEDIA 4. 看護技術講義・演習ノート上巻・下巻 ※その他、文献使用時に提示する					
授業に関する留意点	1. 講義・演習は積極的に取り組むこと（講義前後にテキストを読む、講義内容をノートにまとめる） 2. 技術は、反復することで修得へ繋がる。学んだことをしっかり復習すること 3. 技術を行う中で、行動における根拠が大事となる。根拠を踏まえた学習すること 4. 指示されたテキストは忘れないようにすること 5. 提出物は期限厳守とする。一生懸命取り組むこと					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえて看護実践の基盤となる基本的技術について授業を行う。					

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護技術Ⅱ (コミュニケーション)	単位 1	時間 30	開講年次 1年次 通年
担当教員	上田平昌代 三ツ野佐代子			
学習目的 (ねらい)	1. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。 2. 援助過程において対象の尊厳と擁護する方法を理解できる。			
授業計画				
授業内容			授業形態	時間
1	コミュニケーションとは  GW: 私たちの目指す看護師像について		講義・演習	4
2	対人関係とプロセスとしての看護		講義・演習	2
3	看護とコミュニケーション		講義・演習	2
4	医療における信頼関係とコミュニケーション		講義・演習	2
5	プロセスレコード		講義・演習	4
6	相談・カウンセリング		講義・演習	4
7	看護と人間尊厳		講義・演習	2
8	セルフケア能力の向上をめざす指導・教育		講義・演習	2
9	看護体験からの学び  1) 臨地実習における事例を通してのコミュニケーションの学びと課題		講義・演習	6
10	終講試験		筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験・演習・課題レポートの内容・提出状況・出席状況・授業態度により総合的に評価する。			
テキスト及び参考文献	1. 系統別看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 基礎看護学② 医学書院 2. クリニカルスタディブック1 患者さんの情報収集ガイドブック メデカルフレンド社 3. 看護場面におけるコミュニケーションガイド 日総研 4. 実践にいかす看護コミュニケーション 学研			
授業に関する留意点	1. 講義・演習は事前学習をして主体的に臨む。 2. 援助過程において、対象者の権利を尊重した厳粛な態度で臨む。 3. レポート等の提出期限を守る。			
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ、看護におけるコミュニケーションについて基礎的能力を養うことを目指して授業を行う。			

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護技術Ⅲ (ヘルスアセスメント)	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 前期
担当教員	森川千江美 岩元豪					
学習目的 (ねらい)	1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解できる。 2. 対象の健康問題を把握し、適切な看護を提供するために的確なアセスメント方法を習得する。 3. 看護における記録・報告の意義と方法を理解し実践できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	ヘルスアセスメントの意義と目的、観察				講義	2
2	看護記録、看護記録以外の情報の伝達・共有化の方法				講義	2
3	ヘルスアセスメントの視点				講義・演習	4
4	フィジカルアセスメントの実際 1)バイタルサインの目的 2)バイタルサインの観察方法、技術のポイント (1)体温 (2)脈拍 (3)呼吸 (4)血圧 (5)意識				講義・演習 DVD視聴	10
5	フィジカルアセスメント				講義	2
6	1)体表解剖とフィジカルアセスメント				講義	2
7	2)フィジカルアセスメントの4つの基本技術				講義	2
8	フォーカスアセスメント 1)呼吸器系				講義・演習 DVD視聴	2
9	フィジカルイグザミネーション 1)呼吸器系				講義・演習	2
10	終講試験				筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験・演習・課題レポートの内容・提出状況・出席状況・授業態度 (20%)により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 2. 実践するヘルスアセスメント 身体の構造と機能からアセスメントを導く 学研					
授業に関する留意点	実践の基礎的知識と基本技術を学習します。授業に臨む態度として以下のことを守りましょう。 1. 授業は積極的に臨みましょう。 2. 予習、復習をしましょう。 3. レポート等は提出期日を守りましょう。 4. 実習室での演習時、身だしなみを実習と同様に身だしなみを整えましょう。 5. 演習は、事前学習を行い、積極的に臨みましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ、健康状態を評価する意義と方法を理解し実践へ活用できるよう授業を行う。					

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護技術Ⅳ (看護過程・総合演習)	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	金丸綾子 西田香織					
学習目的 (ねらい)	1. 科学的思考、問題解決思考を基に看護過程を学習し対象のニーズを満たし質を 保証するケア提供の技術を保証する。 2. 既習の基本的な看護の考え方や知識・技術を統合して応用し、日常生活行動援助 を実践できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	看護過程の基になる考え方と理論				講義・演習	2
2	看護過程の構成要素  1) アセスメント  2) 看護上の問題の特定 (看護診断)				講義・演習	6
3	3) 看護計画				講義・演習	4
5	4) 実施				講義・演習	4
6	5) 評価				講義・演習	4
7	筆記試験、復習まとめ				終講試験	2
8	総合演習：事例を基に、看護過程の展開をする				演習	8
成績評価の 方法	1. 筆記試験 60点 2. 総合演習 30点 (グループワークへの参加状況、文献検索などを含む) 3. 提出物：10点					
テキスト及び 参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 2. 患者さんの情報収集ガイドブック メジカルフレンド社					
授業に関する 留意点	1. 演習は、自学習を行った上で積極的に臨む。 2. 提出期限は、厳守する。					
実務経験のある 教員による 実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえて授業を行う。					

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護技術 V (食事・排泄)	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 前期
担当教員	流合愛美 木下勝平					
学習目的 (ねらい)	1. 食事の意義を理解し、安全・安楽を守るための基本的技術を習得できる。 2. 人間の排泄（排尿・排便に関するメカニズム、意義）を理解し、患者が健康的になる生活を送るために必要な援助技術を習得する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
食事	1. 看護における食事生活				講義・演習	4
	2. 食生活の基本援助				講義・演習	2
	3. 疾病時の食事と援助				講義・演習	2
	4. 非経口栄養法				講義・演習	2
	5. 実技演習				演習	4
	6. 終講試験				筆記試験	1
排泄	1. 排泄の意義				講義	2
	2. 排泄のメカニズム					
	3. 排泄の基本的援助				講義	2
	4. 排泄障害と援助の方法				講義	2
	5. 援助方法				演習	8
	6. 終講テスト				筆記試験	1
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学② 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 3. 看護学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
授業に関する留意点	1. 演習は、積極的に臨む。 2. 学習方法としては、講義・演習・VTRの視聴があるが、技術演習は原理・原則をふまえた事前学習や反復練習が重要であることを理解し、演習に励むこと。 3. レポート等は提出期日を守る。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ、日常生活援助の基礎について授業を行う。					

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護技術VI (活動・休息/ 清潔・衣生活)	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 前期
担当教員	皆元謙治 西田香織 川畑晶子					
学習目的 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動・休息の意義を理解し、安全・安楽を守るための基本的技術を習得できる。</li> <li>2. 皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関わる生理的メカニズムを理解し、対象者が健康な生活を送る為に必要な援助方法を学習する。</li> <li>3. 対象者の清潔にかかわるニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択できる。</li> <li>4. 安全、安楽な清潔を保持する援助技術の方法を習得できる。</li> <li>5. 清潔の援助を受ける対象に倫理的配慮ができる。</li> </ol>					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
活動・休息	1. 看護における安全・安楽で効果的な動きのための技術				講義・演習	4
	2. 休息・睡眠を促すための技術				講義	2
	3. 活動・運動を援助する技術 1)姿勢・体位の保持 2)体位変換と褥瘡予防 3)移動				講義・演習	8
	4. 終講試験				筆記試験	1
清潔・衣生活	1. 清潔の基礎知識				講義	2
	2. 看護実践の展開				講義	2
	3. 身体の清潔を保つ援助 1)入浴・シャワー浴					
	2)全身清拭・寝衣交換				講義・演習	2
	3)陰部ケア 4)足浴 (爪切りも含む)				講義・演習	4
	5)洗髪 (ケリーパッドを用いた) 6)口腔ケア 7)目・耳・身だしなみの整容援助				講義・演習	4
4. 終講試験				筆記試験	1	
成績評価の方法	筆記試験、実技試験、課題レポート、手順書、授業態度、小テストの結果、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術II 基礎看護学② 医学書院</li> <li>2. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</li> <li>3. 看護技術がみえるvol 1・2 MEDIC MEDIA</li> <li>4. 看護技術講義・演習ノート上巻・下巻 ※その他、文献使用時に提示する</li> </ol>					
授業に関する留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習は、積極的に臨む。</li> <li>2. 学習方法としては、講義・演習・VTRの視聴があるが、技術演習は原理・原則をふまえた事前学習や反復練習が重要であることを理解し、演習に励むこと。</li> <li>3. 技術演習に際しては倫理的な配慮を行うこと。</li> <li>4. レポート等は提出期日を守る。</li> </ol>					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ、日常生活援助の基礎について授業を行う。					

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護技術Ⅶ (診察・検査/ 与薬)	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 後期
担当教員	流合愛美 有川幸宏					
学習目的 (ねらい)	1. 治療・処置に伴う危険性、法的責任を理解し、安全・安楽な援助方法を学ぶ。 2. 検査時における看護師の役割と検査時の援助方法を学ぶ。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
診 察 ・ 検 査	1. 包帯法				講義・演習	4
	2. 検査に伴う看護と検査の種類				講義	4
	3. 検体検査の方法				講義・演習	6
	4. 終講試験				講義	1
与 薬	1. 治療・処置時の看護技術				講義・演習	2
	2. 与薬時の看護技術				講義・演習	2
	1)薬物療法の意義・目的2)薬物療法に影響する因子 3)薬物療法における看護の機能と役割 4)与薬に関する基礎知識 5)与薬の援助に関する共通事項 6)各与薬の援助法  (1)経口与薬法 (2)直腸内与薬法 (3)点眼・点鼻薬 (4)外用薬  (5)吸入薬 (6)注射による与薬法 (援助と方法)				講義・演習	8
	3. 輸血時の看護技術				講義	2
	4. 終講試験				講義	1
成績評価の方法	筆記試験、実技試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。					
成績評価の方法	1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学② 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 3. 看護技術講義・演習ノート上巻・下巻					
授業に関する留意点	1. 演習は積極的に臨む。 2. 学習方法としては、講義・演習・VTRの視聴があるが、技術演習は原理・原則をふまえた事前学習や反復練習が重要であることを理解し、演習に励むこと。 3. レポート等は提出期日を守る。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ、診療の補助における看護の基礎の授業を行う。					

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	臨床看護総論	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前期
担当教員	西田香織					
学習目的 (ねらい)	健康障害を持つ対象を理解し経過、主要症状および治療処置等の状態に応じて患者の看護に活用できる能力を養う。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	疾病の経過と看護 1) 疾病の経過：急性期、慢性期、回復期、リハビリ期、終末期				講義	4
2	主要症状と看護 1) 呼吸困難 (1) 呼吸障害がある対象 (2) 呼吸の観察とアセスメント (3) 看護上の問題点 (4) 呼吸困難を緩和する援助				講義・演習	6
	2) 発熱 (1) 発熱の機序 (2) 体温の観察とアセスメント (3) 看護上の問題 (4) 発熱を緩和する援助					
	3) 浮腫 (1) 浮腫とは (2) 浮腫の状態の観察とアセスメント (3) 看護上の問題点 (4) 浮腫を緩和する援助					
3	健康障害における対象の看護（総合演習） 1) 看護過程の考え方に沿って根拠のある援助に繋げる (1)呼吸障害がある対象				演習	8
4	終講テスト・まとめ				試験	2
成績評価の方法	1. 課題およびレポートの提出とその内容 2. 筆記試験 3. グループワークへの参加状況、文献検索など学習意欲					
テキスト及び参考文献	1. 新体系 看護学全書13 基礎看護学④ 臨床看護総論 メジカルフレンド社 2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学④ 医学書院 3. 看護課程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 学研					
授業に関する留意点	1. 授業を受ける際は、自学習をして臨むこと 2. 提出期限は守ること。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護学実習 I	単位 1	時間 45	開講年次 基礎看護学実習 I-1 1年次前期 基礎看護学実習 I-2 1年次後期
担当教員	西田香織他専任教員11名			
学習目的 (ねらい)	<p>基礎看護学実習 I-1</p> <p>1. 入院生活を送っている患者の療養生活や思いを知り、看護活動の体験を通して看護について理解を深める。</p> <p>基礎看護学実習 I-2</p> <p>1. 看護の対象として患者を理解し、療養生活における患者の日常生活行動援助を安全・安楽に実施できる。</p>			
授業方法	<p>1. 実習時間 基礎看護学実習 I-1 7.5時間 基礎看護学実習 I-2 37.5時間</p> <p>2. 実習施設 済生会川内病院 鹿児島厚生連病院 川内市医師会立市民病院 鹿児島生協病院 今給黎総合病院</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>			
授業計画	<p>1. 実施期間 基礎看護学実習 I-1 1日間</p> <p>基礎看護学実習 I-2 5日間</p>			
成績評価の方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート面接を総合して行う。			
授業に関する留意点	<p>1. 各オリエンテーションには実習要綱持参して出席すること。</p> <p>2. 学内オリエンテーションで、実習に関すること不明点は、質問し理解して実習には臨むこと。</p> <p>3. 記録物などの提出期限を厳守する。</p> <p>4. 実習に関連する文献の収集を行う、自己学習をする。</p> <p>5. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。</p> <p>6. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。</p> <p>7. 基礎看護学実習の履修認定を受けていない者は、他の看護学の実習を履修することはできない。</p>			
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。			

専門分野 I 基礎看護学

授業科目	基礎看護学実習 II	単位	2	時間	90	開講年次 2年次前期
担当教員	金丸綾子他専任教員11名					
学習目的 (ねらい)	1. 健康障害をもつ対象を通し、科学的問題解決技法を用いて看護実践する基礎的能力を養う。					
授業方法	<p>1. 実習時間 90時間</p> <p>2. 実習施設 済生会川内病院 鹿児島厚生連病院 川内市医師会立市民病院 鹿児島生協病院 今給黎総合病院</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>					
授業計画	1. 実施期間 12日間（臨地10日、学内2日）					
成績評価の方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート面接を総合して行う。					
授業に関する留意点	<p>1. 各オリエンテーションには実習要綱持参して出席すること。</p> <p>2. 学内オリエンテーションで、実習に関すること不明点は、質問し理解して実習には臨むこと。</p> <p>3. 記録物などの提出期限を厳守する。</p> <p>4. 実習に関連する文献の収集を行う、自己学習をする。</p> <p>5. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。</p> <p>6. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。</p> <p>7. 基礎看護学実習の履修認定を受けていない者は、他の看護学の実習を履修することはできない。</p>					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。					

専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人看護学概論	単位	1	時間	30	開講年次	1年次 後期
担当教員	辻本あゆみ						
学習目的 (ねらい)	1. 発達段階に沿って、成人期の特徴とその家族について理解できる。 2. 成人期に特有な健康問題を健康上のニーズに対応させて理解することができる。 3. 成人看護の目的と看護の役割について理解できる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	成人とは 1) 成人とは (1) 成人の定義 (2) ライフサイクルからみた成人の年齢区分と特徴 2) 成人期の特徴 (1) 成人各期における人の身体・精神・社会的特徴と発達課題 (2) 生活状況からみた成人の特徴			講義 グループワーク		6	
2	成人期の対象とその家族 1) 成人期における家族の役割機能 2) 健康障害が家族に与える影響			講義 グループワーク		4	
3	成人期にある人の健康問題 1) 成人期にある人の健康意識 2) 成人期にある人の保健行動 3) 成人期にある人の疾患の特徴 4) 成人期にある人の病者役割行動			講義 グループワーク		6	
	成人看護の役割 1) 成人看護をするための基本 2) 成人の健康レベルと看護の役割 3) 健康問題を持ちながらの生活の調整			講義 グループワーク		8	
5	成人看護の倫理 1) 自己の決定権 2) インフォームドコンセント			講義 グループワーク		4	
6	終講テスト・まとめ			筆記試験		2	
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 2. 国民衛生の動向 厚生統計協会						
授業に関する留意点	成人期の患者を看護する上での大切なことは何か、その実践にはどのような知識や技能が必要なのか等、授業の中で共に考え、学んでいきましょう。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。						

専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人保健	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	辻本あゆみ 流合愛美					
学習目的 (ねらい)	1.成人保健の動向を把握し、成人の健康問題の特徴と健康問題となる諸因子を理解できる。 2.詩人機の対象の健康問題の保健対策、保険活動の意義と重要性をりかいできる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	健康の概念(GW) 生活と健康について				講義	2
2	うつ予防と自殺対策 出生と死亡を統計的にみる				講義	2
3	大人の健康のとらえ方事例を通して考える				講義	2
4	保健・医療・福祉のシステム				講義	2
5	医療に関わる対策 医療保険制度と医療法改正				講義	2
6	医療に関わる対策 ゴールドプラン21・介護保険制度				講義	2
7	健康行動について(演習含む)				講義	2
8	健康行動について コミュニケーション・価値観				講義	2
9	健康障害をもつ大人と看護師との関係				講義	2
10	患者と看護師関係の構築・発展のプロセス				講義	2
11	集団力学とがんとの共生を支えるサポートグループ				講義	2
12	その中における看護師の役割と視点				講義	2
13	危機状況への対処を促す看護				講義	2
14	看護におけるマネジメント				講義	2
15	終講試験及び解説				講義	2
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1.系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 2.国民衛生の動向 厚生統計協会					
授業に関する留意点	成人期における健康についてのとらえ方を深め、その実践にはどのような知識や技能が必要なのか社会情勢をふまえ、授業の中で共に考え、学んでいきましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人看護方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	開講年次	2年次 前期
担当教員	有川幸宏						
学習目的 (ねらい)	1. 成人期にある対象の健康問題に応じた看護の方法を理解できる。 2. 周手術期にある対象の特徴及び看護について理解できる。 3. 生命危機状態にある対象の特徴及び看護の方法を理解できる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	生命危機状態にある対象の看護(急性期看護とは)					講義	2
2	手術を受ける対象の看護					講義・演習	2
	1)手術前の看護：手術前の患者のアセスメントと看護						
	2)手術中の看護：麻酔導入と体位、手術中の全身管理					講義	2
	3)手術後の看護：術後の全身管理、社会復帰への支援					講義・演習	4
4	4)生命危機状態にある対象の看護					講義・演習	10
	(1) 生命危機にある対象の特徴と看護の実際						
3	生命危機状態にある対象の看護（事例展開）					課題演習(プロジェクト学習)	8
1)胃切除術を受ける対象の看護 2)激しい胸痛のある（急性心筋梗塞）対象の看護							
4	終講試験・まとめ					講義	2
成績評価の方法	筆記試験、実技試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座別巻[1] 臨床外科看護総論 医学書院 2. 新体系 看護学全書 経過別成人看護学 急性期看護：クリティカルケア メヂカルフレンド社 3. 新体系 看護学全書 経過別成人看護学 周術期看護 メヂカルフレンド社						
授業に関する留意点	1. 演習は事前学習をして、積極的に臨む。 2. レポート等の提出期限を守る。 3. 今まで既習してきた教科と関連付けて学習する。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。						

専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人看護方法論Ⅱ	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前期
担当教員	辻本 あゆみ					
学習目的 (ねらい)	1. 成人期にある対象の健康問題に応じた看護の方法を理解できる。 2. 身体の一部を喪失した人の理解及び看護について理解できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	身体の一部を喪失した人のある人の理解と看護 1) ボディイメージの変化に対する理解 2) 身体の一部喪失についての理解 3) 喪失に伴う諸機能の変化に対する援助 4) 喪失による基本的生活の変化に応じた援助 5) 患者家族が社会的資源を有効に活用出来るための援助				講義	4
2	咽頭摘出をうけた人の看護 1) 咽頭摘出をうける対象の理解 2) 咽頭摘出をうける対象の看護				講義 グループワーク	4
3	排泄障害のある人の看護 1) 人工肛門を増設する対象の理解 2) 人工肛門を増設する対象への看護 (1) 人工肛門増設した人へのパウチ交換の指導演習				講義 演習 VTR視聴	8
4	四肢切断を受けた人の看護 1) 四肢切断を受ける対象の理解 2) 四肢切断を受ける対象への看護				講義	4
5	女性生殖器を喪失した人の看護 1) 女性生殖器を喪失する対象の理解 2) 心理・社会的特徴				講義 VTR視聴	2
6	子宮を喪失する対象への看護 1) 女性生殖器を喪失する対象の理解 2) 心理・社会的特徴				講義	2
7	事例展開 1) 胃切除を受けた患者の看護 2) 乳房切除術を受けた患者の看護 3) 大腸切除をうけた患者の看護				グループワーク	4
8	終講テスト・まとめ				試験	2
成績評価の方法	筆記試験総合演習(グループワークへの参加状況、文献検索など学習意欲を含む)					
テキスト及び参考文献	[テキスト] 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器, 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器, 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器, 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉, 医学書院 5. 新体系 看護学全書 経過別成人看護学 慢性期看護 メヂカルフレンド社 6. 新体系 看護学全書 経過別成人看護学 周術期看護 メヂカルフレンド社					
授業に関する留意点	1. 授業中は真剣に取り組んでください。 2. 本や資料を読んで何を書いているのか理解しましょう。 3. 授業中、大切な所は説明します。解らない事はそのままにせず、まず自分で調べる習慣をつけましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人看護方法論Ⅲ	単位	1	時間	30	開講年次	2年次 前期
担当教員	三ツ野佐代子						
学習目的 (ねらい)	1. 成人期にある対象の健康問題に応じた看護の方法を理解できる。 2. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人の看護を理解できる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人の特徴と人の特徴と看護 1) 慢性疾患の捉え方 2) 慢性病の特徴、タイプ 3) 慢性疾患と経過と病みの軌跡 4) 慢性病を持つ患者の看護の目標 セルフマネジメント 5) 健康教育のパラダイムシフト 6) セルフマネジメントの構成要素 7) コンプライアンスとアドヒアランス 8) セルフマネジメントを推進して行く過程 エンパワメント					講義	4
2	糖尿病患者の看護 1) 糖尿病に関する病態生理、診断基準、分類、症状、合併症 2) 糖尿病患者の心理、社会的な特徴 3) 長期間の自己管理に伴う問題 4) 看護の実際／主観的データ、客観的データ 5) 看護目標／心理面への援助 6) 患者、家族への教育的アプローチ 7) 合併症に対する援助 8) 糖尿病患者の看護過程の実際					講義・演習	6
3	自己血糖測定 (SMBG) の実際					講義・演習	6
4	腎機能障害のある患者の看護 (慢性腎不全) ・看護過程の実際					講義・演習	6
5	肝機能障害のある患者の看護 (肝硬変) 看護過程の実際					講義・演習	6
6	終講試験					筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学総論 医学書院 2. 新体系 看護学全書 経過別成人看護学 慢性期看護 メヂカルフレンド社 3. 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 4. 系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院						
授業に関する留意点	1. 演習は事前学習をして、積極的に臨む。 2. レポート等の提出期限を守る。 3. 今まで既習してきた教科と関連付けて学習する。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。						

専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人看護方法論Ⅳ	単位	1	時間	30	開講年次	2年次 前期
担当教員	皆元謙治						
学習目的 (ねらい)	1. 成人期にある対象の健康問題に応じた看護の方法を理解できる。 2. 生活行動に障害のある人の看護について理解できる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	一次的に生活行動の障害がある人の理解と看護 1) 「生活行動に障害がある人の看護」の定義 2) 生活行動に障害がある疾患の特徴 3) 一時的に生活行動の障害がある対象の理解 4) 一時的に生活行動の障害がある人の看護				講義	4	
2	長期にわたり生活行動に障害のある人の理解と看護 1) 長期にわたり生活行動に障害のある人の理解 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴 2) 長期にわたり生活行動に障害のある人の看護				講義 グループワーク	6	
3	運動機能障害のある人の看護 1) 大腿骨頸部骨折患者の看護				講義 演習	8	
	演習 歩行の援助：歩行器、松葉杖歩行、MMT、ROM測定				講義 演習	2	
4	事例展開 1) 大腿骨頸部骨折 2) パーキンソン病患者の看護 3) 変形性膝関節症の看護				講義 VTR視聴	8	
5	終講試験・まとめ				試験	2	
成績評価の方法	筆記試験、実技試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器, 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経, 医学書院 3. リハビリテーション看護 南江堂 2013 4. 鈴木久美子：成人看護学 慢性期看護 南江堂 2013						
授業に関する留意点	1. 授業中は真剣に取り組んでください。 2. 本や資料を読んで何を書いているのか理解しましょう。 3. 授業中、大切な所は説明します。解らない事はそのままにせず、まず自分で調べる習慣をつけましょう。 4. レポート等は提出期日を守る。 5. 筆記試験において60%満たないものは再試験の対象とする。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。						

専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人看護方法論Ⅴ	単位	1	時間	30	開講年次	2年次 後期
担当教員	辻本あゆみ 流合愛美						
学習目的 (ねらい)	1. 成人期にある対象の健康問題に応じた看護の方法を理解できる。 2. 成人期にある人が感染を受けたことにより、発達課題やライフスタイルへの影響を知り、必要な看護の方法を理解できる。 3. 治療困難な状態にある人のQOLが高まるような援助の方法を理解できる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	感染症と成人期 1) 感染症とは 2) 定義、今日的課題と対策 3) 身体的・心理的、社会的特徴 感染症患者の看護の役割				講義	2	
2	感染により障害を受けた人の看護 1) MRSAに感染した人の看護				講義	4	
3	2) HIVに感染した人の看護 (1) 身体的援助 (2) 二次感染予防のための援助 (3) 精神的援助 (4) 感染防止のための患者教育				講義	4	
4	ターミナル期の看護 1) ターミナル期とは 2) ターミナルケアとは 3) 看護師が果たす役割				講義	2	
5	緩和ケアとは 1) 定義と目標 2) 全人的苦痛（トータルペイン） 3) チームアプローチ 4) 倫理的問題				講義	2	
6	緩和ケアの実践方法 1) 対症のケア (1) 痛み（ペインコントロール） (2) 呼吸困難 (3) 消化器症状 (4) 倦怠感 (5) 浮腫 (6) 睡眠障害 (7) 不安・うつ・せん妄 (8) スピリチュアルケア 2) 家族のケア				講義	4	
7	看取りのケア 1) 人間の死と生き方に関わる看護師の役割 (1) 人間の死について (2) 告知に関わる看護師の役割 2) 対象へのケア (1) 死の臨み方とリビングウィル (2) 死後のケア 3) 家族へのケア				講義	4	
8	事例展開 ターミナル期にあるがん患者の看護				演習	6	
9	終講試験				筆記試験	2	
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。						
テキスト及び参考文献	1. 新体系看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社 2. 系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー膠原病 感染症 成人看護学⑩ 医学書院						
授業に関する留意点	1. 演習は事前学習をして、積極的に臨む。 2. レポート等の提出期限を守る。 3. 今まで既習してきた教科と関連付けて学習する。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえて授業を行う。						

専門分野Ⅱ 老年看護学

授業科目	老年看護学概論	単位	1	時間	15	開講年次 1年次 後期
担当教員	三ツ野佐代子					
学習目的 (ねらい)	1. 老年期を生きる人々の健康について理解し老化に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の役割と機能を理解する。 2. 高齢者の生命と人格を尊重する態度を養い自己の老年観を培う。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	老年期の理解 1) ライフサイクルにおける老年期 2) 老年期の発達と成熟 3) 高齢者の多様性				講義	4
2	加齢に伴う変化 1) 加齢に伴う変化の特徴 2) 身体的機能の変化 3) 精神的機能の変化 4) 社会的機能の変化				講義	4
3	老年期を生きる人々の健康 1) 高齢者にとっての健康 2) 高齢者の健康の特徴 3) 高齢者と家族				講義	2
4	老年看護学の基本的な考え方 1) 高齢者とQOL 2) 老年看護活動の特性 3) 老年看護における倫理的な課題				講義	4
5	終講テスト				試験	1
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 老年看護学概論（改訂第3版）「老いを生きる」を支えることとは 南江堂 2. 老年看護学技術（改訂第3版）最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂					
授業に関する留意点	1. 授業中は真剣に取り組んで下さい。 2. 本や資料を読んで何が書いてあるのか理解しましょう。 3. 授業中、大切な所は説明します。解らない事はそのままにせず、まず自分で調べる習慣をつけましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 老年看護学

授業科目	老年保健	単位	1	時間	15	開講年次 1年次 後期
担当教員	三ツ野佐代子					
学習目的 (ねらい)	1. 保健医療福祉制度の現状を知り、老年看護に与える影響や看護師の役割と看護の特徴を理解する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	老年期の理解 1) 人口学的指標からの老年期の理解 2) 健康指標からの老年期の理解 3) 生活の視点からの老年期の理解				講義	4
2	介護保険と老年看護 1) 高齢者の保健医療福祉の関連施設における看護 (1) 保健医療福祉の関連施設の看護 (2) 介護療養型医療施設・介護老人保健施設・介護老人福祉施設の特徴と看護 (3) 認知症対応型共同生活介護 (4) 小規模多機能型居宅介護の特徴と看護				講義	4
3	高齢者を介護する家族への看護 1) 介護家族の生活と健康 (1) 要介護高齢者と家族の理解 (2) 介護者の健康と介護力 (3) 家族生活の影響 2) 介護家族への看護 (1) 家族介護状況の把握と分析 (2) 家族援助の視点と看護 (3) 介護力の評価 (4) 介護適応への看護 (5) 支援ネットワークづくり 3) 家族介護の課題 (1) 介護問題の社会的動向 (2) 地域支援と市民参加 (3) 介護の社会化と看護の役割				講義	6
4	終講テスト				試験	1
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 老年看護学概論（改訂第3版）「老いを生きる」を支えることとは 南江堂 2. 老年看護学技術（改訂第3版）最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂					
授業に関する留意点	1. 授業中は真剣に取り組んで下さい。 2. 本や資料を読んで何が書いてあるのか理解しましょう。 3. 授業中、大切な所は説明します。解らない事はそのままにせず、まず自分で調べる習慣をつけましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 老年看護学

授業科目	老年看護方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前期
担当教員	木下勝平					
学習目的 (ねらい)	1. 老年期にある対象の老化と疾病・傷害の程度に応じた看護の方法を理解する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	老年看護の基本的技術 1) 高齢者の観察 2) 高齢者とのコミュニケーション 3) 高齢者の障害受容への看護				講義	2
2	高齢者の生活を支える看護 1) 健康生活の維持 2) 加齢に伴う身体的徴候と看護 3) 事故・災害の予防と救急への対応				講義	2
3	障害・疾患をもつ高齢者の看護 1) 健康障害により起こる高齢者の身体的・心理・社会的変化と日常生活への影響 (1) 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 ① 脱水 ② 摂食障害・嚥下障害 ③ 低栄養状態 ④ 掻痒症 ⑤ 尿失禁 ⑥ 便秘・下痢 ⑦ 睡眠障害 ⑧ 視覚障害 ⑨ 加齢白内障 ⑩ 聴覚障害 ⑪ 老人性難聴 ⑫ 言語障害 ⑬ 廃用症候群と褥瘡 ⑭ 骨粗鬆症 ⑮ うつ病 ⑯ せん妄 ⑰ アルツハイマー型認知症 ⑱ 血管性認知症 ⑲ パーキンソン病 (パーキンソン症候群) ⑳ 感染症 ㉑ 肺炎				グループワーク・発表	18
4	演習 1) 食事 経管栄養：経管胃とチューブの挿入確認、観察 食生活の改善：嚥下障害（とろみ食）嚥下体操 2) 排泄 おむつ交換、陰部洗浄、失禁のケア、 ポータブルトイレでの援助方法				DVD学習 演習	6
5	終講テスト				試験	2
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 老年看護学概論（改訂第3版）「老いを生きる」を支えることとは 南江堂 2. 老年看護学技術（改訂第3版）最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂					
授業に関する留意点	1. 授業中は真剣に取り組んで下さい。 2. 本や資料を読んで何が書いてあるのか理解しましょう。 3. 授業中、大切な所は説明します。解らない事はそのままにせず、まず自分で調べる習慣をつけましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 老年看護学

授業科目	老年看護方法論Ⅱ	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 後期
担当教員	木下勝平 五反田聖子					
学習目的 (ねらい)	1. 老年期にある対象の老化と疾病・障害の程度に応じた看護の方法を学ぶ。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	治療を受ける高齢者への看護 1) 薬物療法 2) 手術療法 3) 受療形態に応じた看護				講義	6
2	終末期にある高齢者の看護				講義	4
3	看取りを終えた家族への看護				講義	6
4	看護過程の展開 1) 大腿骨頸部骨折患者の看護 2) 脳梗塞患者の看護				講義・演習	12
5	終講テスト				筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 老年看護学概論（改訂第3版）「老いを生きる」を支えることとは 南江堂 2. 老年看護学技術（改訂第3版）最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂 3. 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第1版第6刷 *上記以外の参考・引用文献についてはその都度提示する					
授業に関する留意点	1. 演習は積極的に望み、振り返りをしっかり行う。 2. マスメディアを通し高齢者に関する話題や情報に関心をもっておく。 3. 老年看護学概論、老年保健で学んだことを振り返り、これまでの学びと関連付けながら取り組む。 4. 提出物の期限は守ること。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 小児看護学

授業科目	小児看護学概論	単位	1	時間	15	開講年次 1年次 後期
担当教員	上田平 昌代					
学習目的 (ねらい)	1. 看護の対象である小児とその家族および小児を取り巻く環境について学ぶ。 2. 小児保健医療の動向、健康の諸問題について学ぶ					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	小児と小児を取り巻く環境 1) 小児 (1)小児とは (2)小児の区分 (3)小児の特性				講義	2
2	2) 家族 (1)小児にとっての家族 (2)家族関係とその現状 (3)家族の状況に影響を与えている要因				講義 グループワーク	4
3	3) 小児を取り巻く社会 (1)小児の置かれている現状 (2)小児を取り巻く社会環境 (3)サポートシステムと社会資源				講義	4
4	子どもの最善の利益にかなう医療・看護 1) 看護と自己決定権尊重の原則 2) 子どもの患者と大人の患者 3) 子どもの権利条約と子どもの主体性の確立 4) 医療と子どもの権利 5) 子どものマルトリートメントと看護者				講義 VTR視聴	4
5	終講テスト				試験	1
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 新体系看護学28 小児看護学① 小児看護概論・小児保健 メデカルフレンド社 2. 子どもの権利条約 3. 日本子どもを守る会編：子ども白書2005年版、草土文化 4. 「一年一組先生あのね」、理論社 5. VTR「世界がもし100人の村だったら」 6. 「子どもの発達心理学」 新曜社					
授業に関する留意点	1. 授業中は真剣に取り組んで下さい。 2. 本や資料を読んで何が書いてあるのか理解しましょう。 3. 授業中、大切な所は説明します。解らない事はそのままにせず、まず自分で調べる習慣をつけましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 小児看護学

授業科目	小児保健	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前期
担当教員	上田平 昌代					
学習目的 (ねらい)	1. 小児の成長発達について理解し、成長発達段階に応じた日常生活の援助方法について学ぶ。 2. 小児保健の動向と小児に関連する保健医療について理解し、小児と家族に対する健康保持増進への援助について学ぶ。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	小児の成長と発達 1) 成長発達の原則と影響因子 2) 形態的成長 3) 機能的成長 4) 精神運動機能の発達 5) 心理・社会的発達 6) 性の発達 7) 発達評価と環境アセスメント				講義	16
2	小児の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期				講 義	8
3	母子保健の動向と小児保健統計 1) 母子保健の動向 2) 小児保健統計 小児人口の推移 母子保健に関する人口動態統計の年次推移				講 義	4
4	終講テスト				試験	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 新体系看護学 28 小児看護学① 小児看護概論・小児保健 メヂカルフレンド社 2. 国民衛生の動向					
授業に関する留意点	1. 自分やきょうだいの母子手帳で小児期の成長発達について学習内容と照らし合わせてみましょう。 2. 自分の住む地域でどのような小児の保健福祉活動が行われているか、興味をもって調べたり資料を集めたりしてみましょう。 3. 離乳食、乳幼児の衣服、衛生用品、玩具等について調べてみましょう。 4. 各講義のはじめに小テストを実施します。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえて授業を行う。					

専門分野Ⅱ 小児看護学

授業科目	小児看護方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	開講年次	2年次 後期
担当教員	上田平 昌代						
学習目的 (ねらい)	1. 健康障害を持つ小児の成長発達に応じた看護を理解する。 2. 小児期にある対象の健康問題の解決に必要な基礎的知識を理解する。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	1. 小児看護の対象と目標 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標 2. 小児看護の場と看護の特徴 1) 小児の健康と保健・医療・福祉・教育の場 ①保健・医療・福祉・教育の場のネットワーク 2) 小児医療の場と看護 ①小児科外来と看護 ②小児病棟と看護 3) 福祉の場と看護 ①意義と特徴 ②在宅ケア移行の条件 ③在宅ケアによる家族への影響 ④小児在宅ケアの看護					講義 VTR視聴	10
2	3. 小児に見られる症状の特徴 4. 小児に見られる主な症状と看護 1) 不機嫌 2) 発熱 3) 発疹 4) 痙攣 5) 嘔吐 6) 下痢 7) 脱水 8) 呼吸困難					講義	10
3	5. 健康問題・障害の経過の特徴と看護の展開 1) 急性的経過をたどる健康問題・障害と看護 2) 慢性的経過をたどる健康問題・障害と看護 3) ターミナル期の健康障害の主な症状と看護					講義 VTR視聴	8
4	終講テスト・まとめ					試験	2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	1. 新体系看護学28 小児看護学① 小児看護概論・小児保健 メヂカルフレンド社 2. 新体系看護学29 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社						
授業に関する留意点	1. 健康障害をもつ子どもの手記などを積極的に読み、健康障害が子ども、その家族に与える影響を理解するようにしましょう。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。						

専門分野Ⅱ 小児看護学

授業科目	小児看護方法論Ⅱ	単位	1	時間	30	開講年次	3年次 前期
担当教員	原園 伸子						
学習目的 (ねらい)	1. 小児期にある対象の健康問題の解決に必要な基礎的知識を理解する。 2. 小児看護の基本的技術を習得する。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	治療処置、検査を受ける小児と家族					講義・演習	2
2	救急処置を要する小児と家族					講義	2
3	活動制限を必要とする小児と家族					講義	2
4	感染防止の必要がある小児と家族					講義	2
5	痛みのある小児と看護					講義	2
6	被虐待が疑われる小児と家族					講義	2
7	先天的な問題をもつ小児と家族					講義	2
8	障害のある小児と家族					講義	2
9	手術を受ける小児と家族					講義	2
10	災害を受けた小児と家族					講義	2
11	基本となる小児看護技術 1)コミュニケーション技術 2)フィジカルアセスメント 3)診療に伴う援助技術 (1)輸液管理・与薬 (2)呼吸管理(吸引・体位ドレナージ・吸入・酸素療法) (3)経管栄養法 (4)検体採取(採血・採尿) (5)腰椎穿刺・骨髄穿刺 4)指導技術					講義・演習	6
12	事例展開					演習	2
13	終講テスト					筆記試験	2
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト及び参考文献	1.「新体系看護学29 小児看護学② 「健康障害をもつ小児の看護」メヂカルフレンド社 2. 小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総 3. 小児医療の現場で使えるプレバレーションガイドブック 日総研						
授業に関する留意点	1. 健康障害をもつ子どもの手記などを積極的に読み、健康障害が子ども、その家族に与える影響を理解するようにしましょう。 2. 小児看護技術に関しては、自主的にビデオを視聴しましょう。臨地実習前に積極的に自己演習を行い技術の向上に努めていきましょう。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえて授業を行う。						

専門分野Ⅱ 母性看護学

授業科目	母性看護学概論	単位	1	時間	15	開講年次 1年次 後期
担当教員	川畑 晶子					
学習目的 (ねらい)	1. 母性の概念と母性看護の役割を理解する。 2. 性と生殖に関する基礎的知識を基に性の価値観と看護者としての倫理観を養う。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	母性の概念	1) 母性とは	2) 母性の発達	講義	2	
2	母性看護の意義	1) 母性看護とは	2) 母性看護の課題と展望	講義	2	
3	母性看護の対象理解			講義	2	
4	リプロダクティブヘルス/ライツ			講義	2	
5	ヘルスプロモーション			講義	2	
6	母性看護と生命倫理 1) 出生前診断 2) 不妊治療 3) 人工妊娠中絶 4) 生殖補助医療 5) 性と生殖に関する権利			講義 ディベート	4	
7	終講テスト			試験	1	
成績評価の方法	筆記試験(80点)ディベート評価(10点)感想カード、出席状況(10点)により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 2. 新体系看護学全書 母性看護学① 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護 メヂカルフレンド社					
授業に関する留意点	1. 講義や討議に積極的に参加する。 2. 母性に関して今、何が話題になっているのか、新聞・本・雑誌・TVなどで取り上げられている様々な情報に関心を持って授業に参加する。 3. テキスト、講義資料を熟読する。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 母性看護学

授業科目	母性保健	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前期
担当教員	川畑 晶子					
学習目的 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性の健康を維持・促進するための基礎的知識を学ぶ。</li> <li>2. 母子を取り巻く現状と対策を理解する。</li> <li>3. 女性のライフサイクルにおける各期の特徴を理解し、母性保健活動の役割を学ぶ。</li> </ol>					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	母性保健の目的と現状、母性の健康と環境				講義	2
2	母性看護に関する統計				講義	2
3	母性を取り巻く組織と法律				講義	2
4	母性保健の現状と展望、母子を支える社会・組織				講義	2
5	女性のライフサイクル各期の保健				講義	2
6	・思春期				講義	2
7	・成熟期				講義	2
8	・更年期				講義	2
9	・老年期				講義	2
10	母性各期の健康問題と看護				講義	2
11	・思春期				講義	2
12	・成熟期				講義	2
13	・更年期				講義	2
14	・老年期				講義	2
15	終講試験・まとめ				まとめ・試験	2
成績評価の方法	筆記試験 レポート					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院					
授業に関する留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義や討議に積極的に参加する。</li> <li>2. 母性に関して今、何が話題になっているのか、新聞・本・雑誌・TVなどで取り上げられている様々な情報に関心を持って授業に参加する。</li> <li>3. テキスト、講義資料を熟読する。</li> </ol>					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 母性看護学

授業科目	母性看護方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前期
担当教員	岩元 妙子 山下百恵					
学習目的 (ねらい)	1. 妊娠・分娩の正常な経過を知り、その維持・促進のための看護を学ぶ。 2. 子供の誕生に伴う家族の役割への援助を学ぶ。 3. 性状からの逸脱を予測しその予防と看護を学ぶ。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	正常妊娠の経過と看護①妊娠の成立と正常な経過				講義	2
2	正常妊娠の経過と看護②妊娠の身体的特徴				講義	2
3	正常妊娠の経過と看護③妊娠の心理・社会的特徴				講義	2
4	正常妊娠の経過と看護④妊婦の健康管理の方法				講義	2
5	正常妊娠の経過と看護⑤妊婦の日常生活とセルフケア(妊婦体操)				講義・演習	2
6	正常妊娠の経過と看護⑥妊婦の診察とその介助の実際(腹囲、子宮底測定、レオポルド四段診察法)				講義・演習	2
7	産婦の特徴とその状況に応じた看護①分娩の機序と経過				講義	2
8	産婦の特徴とその状況に応じた看護②産婦の看護(分娩の方法・産痛緩和など)				講義	2
9	産婦の特徴とその状況に応じた看護③産婦の看護(産婦の特徴と看護のアセスメント)				講義	2
10	産婦の特徴とその状況に応じた看護④産婦の看護(産婦の特徴と看護のアセスメント)				講義	2
11	産婦の特徴とその状況に応じた看護⑤胎児心音の観察				講義	2
12	妊娠中に起こりやすい異常の看護①(流産・早産、妊娠高血圧症候群)				講義	2
13	妊娠中に起こりやすい異常の看護②(常位胎盤早期剥離、前置胎盤など)				講義	2
14	ハイリスク妊娠と看護				講義	2
15	終講試験・まとめ				まとめ・試験	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 2. 母性看護学1 妊娠・分娩 第2版 医歯薬出版					
授業に関する留意点	1. 講義や討議に積極的に参加する。 2. 母性に関して今、何が話題になっているのか、新聞・本・雑誌・TVなどで取り上げられている様々な情報に関心を持って授業に参加する。 3. テキスト、講義資料を熟読する。					
実務経験のある教員による実践的授業	助産師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ

授業科目	母性看護方法論Ⅱ	単位	1	時間	30	開講年次 3年次 前期
担当教員	岩元妙子 川畑晶子 山下百恵					
学習目的 (ねらい)	1. 褥婦の特徴を理解し、その状況に応じた看護を学ぶ。 2. 新生児に生理的变化、正常な経過を尻、母子に対する看護を学ぶ。 3. 分娩期・産褥期・新生児期の異常における看護を学ぶ。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	正常産褥の経過と看護①母体の全身の変化・退行性変化・進行性変化				講義	2
2	正常産褥の経過と看護②母乳分泌				講義	2
3	褥婦の看護①褥婦の全体像、特徴と看護のアセスメント				講義	2
4	褥婦の看護②子宮復古現象の促進、保健指導				講義	2
5	褥婦の看護③産褥期に母乳ケア				講義	2
6	新生児の経過と看護①正常な新生児の生理と経過				講義	2
7	新生児の経過と看護②新生児の看護				講義	2
8	分娩期に起こりやすい異常と看護①分娩第3期の異常				講義	2
9	分娩期に起こりやすい異常と看護②胎児ジストレス出現時の看護、帝王切開術の適応と看護				講義	2
10	産褥期に起こりやすい異常と看護				講義	2
11	新生児期に起こりやすい異常と看護				講義	2
12	沐浴について:必要性と手技				講義	2
13	身体計測、バイタルサイン測定				演習	2
14	沐浴、おむつ交換、臍帯処置				演習	2
15	終講試験・まとめ				まとめ・試験	2
成績評価の方法	筆記試験					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 2. 母性看護学2 産褥・新生児 第2版 医歯薬出版					
授業に関する留意点	1. 講義や討議に積極的に参加する。 2. 母性に関して今、何が話題になっているのか、新聞・本・雑誌・TVなどで取り上げられている様々な情報に関心を持って授業に参加する。 3. テキスト、講義資料を熟読する。					
実務経験のある教員による実践的授業	助産師・看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 精神看護学

授業科目	精神看護学概論	単位	1	時間	15	開講年次 1年次 後期
担当教員	川畑 孝美					
学習目的 (ねらい)	1. 精神看護の対象及び看護の目的、機能と役割について理解できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	精神看護学の基本 1) 精神看護の対象とは      2) 精神看護学の基本的考え方				講義	2
2	精神保健医療の歴史的変遷				講義	2
3	精神看護学の関連理論 1) 対人関係論      2) コミュニケーション論				講義	4
4	精神疾患とその症状について 1) 知覚の障害      2) 思考障害      3) 自我意識の障害 4) 感情障害      5) 意欲（欲動＋意志）・行動の障害 6) 意識の障害      7) 知能の障害				講義	4
5	これからの精神看護学 1) リエゾン精神看護患者の権利擁護				講義	2
6	終講テスト				試験	1
成績評価の方法	筆記試験、レポート、出席状況で総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 精神看護学I 精神保健・多職種のつながり（改訂第2版） こころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 2. 精神看護学II 臨床で活かすケア（改訂第2版） こころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 3. 人間関係の看護論 ペプロー 医学書院					
授業に関する留意点	1. ペプローの対人関係理論について予習しておいて下さい。 2. ノーマライゼーション、プライバシー、偏見、人権擁護、倫理、看護観精神保健及び精神障害者福祉に関する法律について予習しておいて下さい。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					

専門分野Ⅱ 精神看護学

授業科目	精神保健	単位	1	時間	30	開講年次 1年次 後期
担当教員	山下みどり 福崎 英子					
学習目的 (ねらい)	心の健康についての考え方を学び、心の健康を脅かす様々な環境因子を理解し、その予防法や支援方法を考えることができる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	精神保健とは				講義	2
2	心の発達				講義	2
3	性の発達				講義	2
4	生活の場とクライシス(1)				講義	2
5	生活の場とクライシス(2)				講義	2
6	生活の場とクライシス(3)				講義	2
7	職場・地域とクライシス(4)				講義	2
8	医療現場とクライシス(1)				講義	2
9	医療現場とクライシス(2)				講義	2
10	医療現場とクライシス(3)				講義	2
11	がん患者と精神保健(1)				講義	2
12	がん患者と精神保健(2)				講義	2
13	災害被害者の精神保健				講義	2
14	精神医学の基礎知識				講義	2
15	終講試験				まとめ・試験	2
成績評価の方法	筆記試験 レポート					
テキスト及び参考文献	1. 精神看護学I 精神保健・多職種をつながり (改訂第2版) こころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 2. 精神看護学II 臨床で活かすケア (改訂第2版) こころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 3. 精神看護学 精神保健 (医歯薬出版)					
授業に関する留意点	ノーマライゼーション、プライバシー、偏見、人権擁護、倫理、看護観精神保健及び精神障害者福祉に関する法律について予習しておいて下さい。					
実務経験のある教員による実践的授業						

専門分野Ⅱ 精神看護学

授業科目	精神看護方法論Ⅰ	単位	1	時間	30	開講年次 2年次 前期
担当教員	川畑 孝美					
学習目的 (ねらい)	1. 精神の健康に障害をもつ対象の心の理解と、対人関係の成立のための技術について理解する。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	精神科看護を実践するための基礎知識 1) 精神科看護の特徴                      2) 精神科看護の目的 3) 精神科看護の役割				講義	6
2	検査・諸療法と看護 1) 検査を受ける患者の看護      2) 薬物療法と看護 3) 身体療法と看護                      4) 精神療法と看護 5) 生活療法と看護：生活指導、レクリエーション療法、作業療法				講義	10
3	精神疾患の特徴及び診断や治療と看護 1) 脳器質性精神病                      2) 症状性精神病 3) アルコール依存と薬物依存                      4) てんかん 5) 統合失調症      6) 気分障害                      7) 心身症 8) 人格障害                      9) 児童・思春期の主な精神障害 10) 神経症と心因精神病				講義	12
4	終講試験・まとめ				まとめ・試験	2
成績評価の方法	筆記試験、レポート					
テキスト及び参考文献	1. 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり (改訂第2版) ころこ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 2. 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア (改訂第2版) ころこ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 3. 精神看護学 精神保健 (医歯薬出版) 4. 人間関係の看護論 ペプロー 医学書院					
授業に関する留意点	1. 精神現象については解剖生理学でも学習する。 2. 精神科に特有かつ頻度の高い疾患についての症状と、その症状の出現する精神現象の生理学、解剖学的特徴からメカニズムについて理解し、その看護について学習する。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ授業を行う。					



専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人看護学実習Ⅰ	単位	2	時間	90	開講年次 2年次
担当教員	辻本あゆみ他専任教員10名					
学習目的 (ねらい)	成人期にある対象を多角的に捉え、問題解決思考に基づく看護を展開するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。					
授業方法	<p>1. 実習時間 90時間</p> <p>2. 実習施設 済生会川内病院 鹿児島厚生連病院 川内市医師会立市民病院 鹿児島生協病院 今給黎総合病院</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>					
授業計画	1. 実施期間 12日間（臨地10日、学内2日）					
成績評価の方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。					
授業に関する留意点	<p>1. 目標を明確にして実習に臨むこと。</p> <p>2. 実習中、経過により変化する対象を受け持つ。</p> <p>3. 記録物などの提出期限を厳守する。</p> <p>4. 受持対象に関連する文献の収集を行い、自己学習をする。</p> <p>5. 看護過程の各段階で、指導者の指導を受ける。</p> <p>6. 看護計画はカンファレンスで発表・検討・助言を受ける。</p> <p>7. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。</p> <p>8. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。</p> <p>9. 指導者への質問はナースステーションで行う。</p> <p>10. メモをする時は患者の前では行わない。</p> <p>11. カルテを閲覧する時は、必ず指導者の許可をもらう。</p>					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。					

専門分野Ⅱ 成人看護学

授業科目	成人看護学実習Ⅱ-1.2	単位	4	時間	180	開講年次 3年次
担当教員	辻本あゆみ他専任教員10名					
学習目的 (ねらい)	成人期における対象の看護について全人的な視点から多角的に捉え、専門職業人として共感的態度・倫理に基づいた看護を実践し、その人らしく生活できるような看護援助が行える。					
授業方法	<p>1. 実習時間           成人看護学実習Ⅱ-1   90時間                           成人看護学実習Ⅱ-2   90時間</p> <p>2. 実習施設           済生会川内病院                   鹿児島厚生連病院                           川内市医師会立市民病院       鹿児島生協病院                           今給黎総合病院</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>					
授業計画	<p>1. 実施期間</p> <p>                          成人看護学実習Ⅱ-1           12日間（臨地10日、学内2日）</p> <p>                          成人看護学実習Ⅱ-2           12日間（臨地10日、学内2日）</p>					
成績評価の方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。					
授業に関する留意点	<p>1. 目標を明確にして実習に臨むこと。</p> <p>2. 実習中、経過により変化する対象を受け持つ。</p> <p>3. 記録物などの提出期限を厳守する。</p> <p>4. 受持対象に関連する文献の収集を行い、自己学習をする。</p> <p>5. 看護過程の各段階で、指導者の指導を受ける。</p> <p>6. 看護計画はカンファレンスで発表・検討・助言を受ける。</p> <p>7. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。</p> <p>8. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。</p> <p>9. 指導者への質問はナースステーションで行う。</p> <p>10. メモをする時は患者の前では行わない。</p> <p>11. カルテを閲覧する時は、必ず指導者の許可をもらう。</p>					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。					

専門分野Ⅱ 老年看護学

授業科目	老年看護学実習Ⅰ	単位	2	時間	90	開講年次 2年次
担当教員	三ツ野佐代子他専任教員10名					
学習目的 (ねらい)	1. 老年期にある対象を理解し、健康問題のある対象への看護実践をとおして看護の機能と役割を学ぶ。					
授業方法	<p>1. 実習時間 90時間</p> <p>2. 実習施設 鹿児島生協病院 鹿児島徳洲会病院 川内市医師会立市民病院 大勝病院 今給黎総合病院 今村総合病院</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>					
授業計画	1. 実施期間 12日間（臨地10日、学内2日）					
成績評価の方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。					
授業に関する留意点	<p>1. 目標を明確にし、行動する。</p> <p>2. 対象の安全・安楽を常に考慮して行動する。</p> <p>3. 言葉遣い、態度には十分注意する。</p> <p>4. 詳細に関しては、老年看護学実習要項、要領を参照すること。</p>					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。					

専門分野Ⅱ 老年看護学

授業科目	老年看護学実習Ⅱ	単位	2	時間	90	開講年次 3年次
担当教員	三ツ野佐代子他専任教員10名					
学習目的 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある人々の生活の場と健康レベルの多様性を理解し、老年期にある人々の QOLを支えるために必要な保健・医療・福祉に携わる職種との協働・連携と看護の役割を学ぶ。</li> <li>2. 老年期にある対象のこれまでの生活史や価値観を理解し、尊重した態度で接することができる。</li> </ol>					
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習時間 90時間 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で安心して暮らすための社会福祉協議会の役割 7.5時間</li> <li>2) 介護老人福祉施設で暮らす高齢者の理解 7.5時間</li> <li>3) 地域における保健・医療・福祉の中間施設の役割 75時間</li> </ol> </li> <li>2. 実習施設 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各地域の社会福祉協議会(薩摩川内市/日置市東市来町/いちき串木野市)</li> <li>2) 介護老人福祉施設(潮風園、翠泉苑、秋光園)</li> <li>3) 介護老人保健施設(さるびあ苑、田上苑、ひまわり、アンダンテ伊集院)</li> </ol> </li> <li>3. 詳細は、実習要領参照のこと</li> </ol>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施期間 12日間(臨地10日、学内2日) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で安心して暮らすための社会福祉協議会の役割(1日)</li> <li>2) 介護老人福祉施設で暮らす高齢者の理解(1日)</li> <li>3) 地域における保健・医療・福祉の中間施設の役割(8日)</li> </ol> </li> </ol>					
成績評価の方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。					
授業に関する留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を明確にし、行動する。</li> <li>2. 対象の安全・安楽を常に考慮して行動する。</li> <li>3. 言葉遣い、態度には十分注意する。</li> <li>4. 詳細に関しては、老年看護学実習要項、要領を参照すること。</li> </ol>					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。					

専門分野Ⅱ 小児看護学

授業科目	小児看護学実習	単位	2	時間	90	開講年次	3年次
担当教員	上田平昌代他専任教員						
学習目的 (ねらい)	<p>小児看護学実習Ⅰ 健康な小児の特徴を理解し、成長発達に応じた保育のあり方を学ぶ。</p> <p>小児看護学実習Ⅱ 小児期にある対象とその家族を総合的に理解し、発達段階、健康障害および健康段階に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>小児看護学実習Ⅲ 在宅で生活している小児とその家族を総合的に理解し、発達段階・健康障害に応じた支援と多職種との連携について学ぶ。</p>						
授業方法	<p>1. 実習時間 90時間</p> <p>小児看護学実習Ⅰ 30時間</p> <p>小児看護学実習Ⅱ 45時間</p> <p>小児看護学実習Ⅲ 15時間</p> <p>2. 実習施設</p> <p>小児看護学実習Ⅰ 神村学園附属幼稚園</p> <p>小児看護学実習Ⅱ 済生会川内病院 鹿児島生協病院</p> <p>池田病院 今給黎総合病院</p> <p>小児看護学実習Ⅲ 鹿児島県立串木野養護学校</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>						
授業計画	<p>1. 実施期間 12日間</p> <p>小児看護学実習Ⅰ 4日間 前期</p> <p>小児看護学実習Ⅱ 6日間 後期</p> <p>小児看護学実習Ⅲ 2日間 後期</p>						
成績評価の方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。						
授業に関する留意点	<p>1. 実習要綱を熟読し、実習に臨むこと。</p> <p>2. 学内オリエンテーションで、実習に関する不明点は質問して実習に臨むこと。</p> <p>3. 記録物などの提出期限を厳守する。</p> <p>4. 実習に関する文献の収集を行い、自己学習をする。</p> <p>5. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。</p> <p>6. 実施する看護技術は指導のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。</p> <p>7. 看護過程の各段階で指導者の指導を受ける。</p> <p>8. カンファレンスは、積極的に参加し学習の共有を図る。</p> <p>9. 実習生の態度が小児の生活習慣獲得等に影響を与えるため慎重に行動すること。</p> <p>10. 小児の自立を妨げないように行動すること。</p>						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。						

専門分野Ⅱ 母性看護学

授業科目	母性看護学実習	単位	2	時間	90	開講年次	3年次								
担当教員	川畑晶子他専任教員														
学習目的 (ねらい)	妊娠・分娩・産褥の母性各期および新生児期における対象の特性を理解し、対象（家族を含む）の健康状態に応じた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。														
授業方法	<p>1. 実習時間 90時間</p> <p>2. 実習施設 愛育病院 済生会川内病院 今村総合病院 今給黎総合病院</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>														
授業計画	<p>1. 実施期間 12日間</p> <p>2. 実習内容</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>NICU実習</td> <td>15時間</td> </tr> <tr> <td>病棟実習</td> <td rowspan="3">} 60時間</td> </tr> <tr> <td>外来実習</td> </tr> <tr> <td>新生児室実習</td> </tr> <tr> <td>学内実習</td> <td>15時間</td> </tr> </table> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>							NICU実習	15時間	病棟実習	} 60時間	外来実習	新生児室実習	学内実習	15時間
NICU実習	15時間														
病棟実習	} 60時間														
外来実習															
新生児室実習															
学内実習	15時間														
成績評価の方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。														
授業に関する留意点	<p>1. 責任ある行動をとること。</p> <p>2. 自己学習に励み、疑問点などは、図書室の活用をし早めに解決するように心がける。</p> <p>3. 健康に留意し遅刻、欠席がないようにする。感染症には十分注意する。</p> <p>4. 実習の目的を十分理解して、積極的に臨むこと。</p> <p>5. 新生児に接する際は、十分に注意し指導者・教員の指示に従う。</p>														
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。														

専門分野Ⅱ 精神看護学

授業科目	精神看護学実習	単位	2	時間	90	開講年次	3年次
担当教員	皆元謙治他専任教員						
学習目的 (ねらい)	精神障害を持ち対象を理解し、看護に必要な知識・技術・態度を理解する。						
授業方法	<p>1. 実習時間 90時間</p> <p>2. 実習施設 メンタルホスピタル鹿児島 伊敷病院</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>						
授業計画	1. 実施期間 12日間（臨地10日、学内2日）						
成績評価の 方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。						
授業に関する 留意点	<p>1. 学内実習では、臨地実習に向けて不明点のないように学ぶ。</p> <p>2. 記録物等の提出期限を厳守する。</p> <p>3. 実習に関連する文献の収集や学習を積極的に行う。</p> <p>4. 事故のコミュニケーションの傾向を知り、対象や病棟スタッフなどとコミュニケーションを十分に図り、相互関係を深める。</p> <p>5. 個人情報保護を厳守する。</p>						
実務経験のある 教員による 実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。						

統合分野 看護の統合と実践

授業科目	在宅看護概論	単位	1	時間	15	開講年次 2年次 後期
担当教員	柳田 千草					
学習目的 (ねらい)	在宅看護の概念と変遷について理解し在宅看護の活動の場と役割について理解できる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	在宅看護の目的と特徴 1)在宅看護の概念 (1)在宅看護が提供される場 (2)在宅看護の場の広がり (3)在宅看護に求められていること (4)あらゆる面からQOLを考える				講義・演習	4
2	2)在宅看護の変遷 (1)在宅看護における看護師の役割と機能 ①超高齢社会の伸展と地域連携システム ②家族を含めた継続看護について ③在宅看護における看護師の役割				講義・演習	4
3	3)訪問看護が抱えている課題 (1)在宅看護のしくみ ①ケアマネジメントの概念と機能 ②介護保険制度 ③訪問看護制度 (2)在宅看護における看護師の倫理				講義・演習	6
	終講テスト				試験	1
成績評価の方法	筆記試験、小テスト、授業及び演習態度により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2. よくわかる在宅看護 改訂第2版 学研 3. 在宅看護 体験学習ノート 医歯薬出版株式会社					
授業に関する留意点	1. 予習・復習をしましょう。 2. 小テストにて理解度を確認しましょう。 3. 講義・演習は積極的に臨みましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	訪問看護師として業務に携わり、豊富な経験をふまえて講義を行う。					

統合分野 看護の統合と実践

授業科目	在宅看護方法論 I	単位	1	時間	30	開講年次	3年次 前期
担当教員	金丸綾子 森川千江美						
学習目的 (ねらい)	1. 家庭訪問の基礎的技術を習得し、生活の場に即した方法を学ぶ。 2. 地域の医療・保健・福祉の体系と連携について学び、経済性を考慮した日常生活援助方法が実践できる。 3. 医療ニーズに応じた特殊技術の理解ができる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	家庭訪問の基本的技術 1) 家庭訪問 (1) 家庭訪問の技術 (2) 患者・家族の相談・カウンセリング技術 (3) 判断・意思決定技術 (4) 各種の手技的技術 (5) 他職種との調整技術 2) 日常生活の技術の工夫 (1) 清潔の援助 (2) 休息と活動 (3) 環境調整の援助 (4) 食事 (5) 排泄 (6) 介護用品の作成				講義・演習	10	
2	在宅における日常生活行動援助 1) 経管栄養の管理 (1) 水分・栄養の管理 (2) 注入法 (3) カテーテルの交換 2) 留置カテーテルの管理 (1) 尿の流出管理 (2) 膀胱洗浄 (3) カテーテルの交換 3) 自己導尿 (1) 対象 (2) 消毒法 (3) 方法 4) 気管カニューレの管理 5) 吸引 (1) 気道内吸引 (2) 口腔内吸引 6) 酸素吸入 (1) 携帯用、簡易型酸素吸入器の取扱い 7) 人工呼吸器の管理 (1) 人工呼吸器の種類と管理 8) 中心静脈栄養管理 9) 褥瘡処置 10) 災害時の対応、準備				講義・演習	18	
3	まとめ・終講試験				まとめ・試験	2	
成績評価の方法	1. 筆記試験 2. 小テスト 3. 授業及び演習態度、出席状況により総合的に評価する。						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2. よくわかる在宅看護 改訂第2版 学研 3. 在宅看護 体験学習ノート 医歯薬出版株式会社						
授業に関する留意点	1. 予習・復習をしましょう。 2. 小テストにて理解度を確認しましょう。 3. 講義・演習は積極的に臨みましょう。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として実務経験をふまえ講義を行う。						

統合分野 看護の統合と実践

授業科目	在宅看護方法論Ⅱ	単位	1	時間	15	開講年次 3年次 前期
担当教員	森川千江美					
学習目的 (ねらい)	1. 訪問看護を開始するまでの準備やマナーについて学び、対象者と円滑な関係を結ぶことができる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	訪問看護の準備 1) 訪問看護の準備 (1) 情報入手の経路と患者・家族の予測 (2) 患者・家族の理解 2) 診療機関の確認と調整 (1) 医師からの病状、指示等の確認 (2) 看護サイドからの看護状況 (3) 緊急時の対応 3) 対象をとりまく他職種との確認と調整 4) 訪問看護についての患者、家族への説明 (1) 訪問看護について (2) 在宅看護について (3) 費用について				講義・演習	6
2	訪問看護の実際 1) 対応とマナー (1) 生活で明るい態度 (2) 配慮と節度のある言動 (3) 対象の価値観を尊重した態度 (4) 自己を客観視できること 2) 必要な技術の提供と指導 (1) 安全性、安楽性、経済性のある技術 (2) 自立を考えた技術 (3) 自己予防対策 3) 相談と指導技術 4) アセスメント、計画、実践、評価能力 5) 必要な関係機関との連絡調整				講義・演習	8
3	終講試験・まとめ				まとめ・試験	1
成績評価の方法	1. 筆記試験 2. 小テスト 3. 授業及び演習態度、出席状況により総合的に評価する。					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2. よくわかる在宅看護 改訂第2版 学研 3. 在宅看護 体験学習ノート 医歯薬出版株式会社					
授業に関する留意点	1. 予習・復習をしましょう。 2. 小テストにて理解度を確認しましょう。 3. 講義・演習は積極的に臨みましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として実務経験をふまえ講義を行う。					

統合分野 看護の統合と実践

授業科目	在宅看護方法論Ⅲ	単位	1	時間	30	開講年次	2年次 後期
担当教員	森川千江美						
学習目的 (ねらい)	1. 在宅で療養している対象の状態に応じた看護展開ができる。 2. 小児における在宅看護の現状を知り、今後の小児在宅看護のあり方について学ぶ。 3. 在宅療養している小児と家族の支援のあり方について学ぶ。 4. 在宅における他職種との連携と社会資源の活用について学ぶ。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	在宅看護の振り返り 1)在宅看護の理念				講義	2	
2	脳卒中後遺症のある高齢者の生活支援 1)食の援助 2)移動の援助 3)清潔の援助				講義	2	
3	感染症が疑われる療養者の生活支援 1)呼吸の援助				講義	2	
4	認知症高齢者の状態に応じた看護展開 1)服薬援助				講義	2	
5	難病対象の24時間ケアを要する事例の展開 1)在宅難病療養を支援する社会資源 2)難病在宅ケアシステム				講義	2	
6	ターミナル対象の事例展開 1)在宅ターミナル期の療養者とその家族への支援 2)夜間救急訪問依頼とケア 3)死別後の家族への対応 4)ターミナル期の援助				講義	4	
7	エンジェルケア 1)エンジェルケアの実際 2)エンジェルケアを行う上での注意点				講義	4	
8	小児在宅医療の現況 1)小児在宅医療の現況 2)在宅医療の利点と欠点 3)今後の地域医療システムの構築				講義・ ディスカッション	2	
9	在宅医療とQOL 1)在宅医療がもたらすもの 2)障害児の親の気持ち 3)システムとしての家族 4)医療的ケアの必要な子どもにとっての社会参加とは				講義	2	
10	退院後の支援と社会資源 1)退院時の指導 2)家族が望む援助 3)小児在宅医療外来と在宅医療支援チーム 4)訪問看護の働き 5)地域における支援体制と社会資源				講義・VTR視聴	2	
11	看護過程の展開 1)医療的ケアを必要とする在宅療養の子どもと家族の事例展開				看護過程の展開	2	
12	終講試験・まとめ				まとめ・試験	2	
成績評価の方法	筆記試験、実技試験、課題レポート、出席状況により総合的に評価する。						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2. よくわかる在宅看護 改訂第2版 学研 3. 在宅看護 体験学習ノート 医歯薬出版株式会社 4. 改訂2版 医療従事者と家族のための小児在宅医療支援マニュアル MCメディカ出版						
授業に関する留意点	1. 演習は、積極的に臨む。 2. 学習方法としては、講義・演習・VTRの視聴があるが、技術演習は原理・原則をふまえた事前学習や反復練習が重要であることを理解し、演習に励むこと。 3. レポート等は提出期日を守る。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として実務経験をふまえ講義を行う。						

統合分野 看護の統合と実践

授業科目	看護管理と研究	単位	1	時間	30	開講年次 3年次 前期～後期
担当教員	森川千江美 植屋よしの					
学習目的 (ねらい)	1. 看護管理の概念とマネジメントの基礎が理解できる。 2. 組織の中での看護師の役割を理解できる。 3. 看護体験を通して、問題解決への科学的思考力を養い、研究的態度を身につけることができる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	看護管理とは 1) 看護とマネジメント (1)看護管理・マネジメントの定義 (2)看護におけるマネジメント 2)ケアのマネジメント (1)ケアのマネジメントと看護職の機能 (2)看護基準と看護手順 (3)患者の権利の尊重 (4)安全管理 (5)看護職の協働と他職種との協働 (6)情報管理 (7)研究成果の活用				講義	4
2	看護管理のスキル 1)看護サービスのマネジメント (1)看護サービスのマネジメント (2)組織目的達成のマネジメント (3)協働のためのマネジメント (4)情報・技術のマネジメント (5)サービスの評価 2)マネジメントに必要な知識と技術 (1)組織とマネジメント (2)リーダーシップとマネジメント (3)組織の調整				講義・演習	8
	看護に関する法律 1)看護をとりまく諸制度 (1)看護の定義 (2)看護職と看護実践の領域と場 (3)医療制度				講義・演習	2
4	研究とは 1)看護研究：(1)研究とは (2)看護研究とは 2)質的研究と量的研究：(1)技術知と科学知の相互作用 (2)科学的な方法とは (3)「自然主義」と「実証主義」 (4)帰納的(質的)研究の過程(5)演繹的(量的)研究の過程				講義・演習	8
5	ケーススタディ 1)ケーススタディレポート作成 2)ケーススタディ発表				演習・発表	6
6	まとめ・終講テスト				試験	2
成績評価の方法	1. 課題およびレポートの提出とその内容 2. 筆記試験 3. 講義・演習に取り組む態度					
テキスト及び参考文献	1. ナーシング・グラフィカ 看護管理 看護の統合と実践1 メディカ出版 2. 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 3. 看護課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門 日本看護協会出版社					
授業に関する留意点	授業に臨む態度として以下のことを守りましょう。 1. 個人学習やグループ学習はこれまでの学習を総合して臨みましょう。 2. レポート等は提出期日を守りましょう。 3. 倫理的配慮や医療安全についても実践の場を想起して臨みましょう。 4. 演習は、専門的な向上を目指し臨みましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として実務経験をふまえ講義を行う。					

統合分野 看護の統合と実践

授業科目	診療の補助技術における安全	単位	1	時間	30	開講年次 3年次 前期～後期
担当教員	西田香織 金丸綾子					
学習目的 (ねらい)	臨床で起こった事故事例をもとに、対象の生命を守るために安全に看護を提供する方法を学び、看護師としての責任があることを認識し、責任ある行動がとれる。					
授業計画						
授業内容					授業形態	時間
1	*イントロダクション：医療事故についての構造（復習） 医療事故の発生のメカニズムと防止策 1) 事故発生のメカニズム 2) 事故分析と防止策を考える				講義・演習	10
2	注射業務と事故防止 1) 安全で確実な点滴静脈内注射の実施 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの正しい取り扱い				講義・演習	6
3	3) 与薬のエラーと危険性への認識 (1) 注射業務プロセスからみた事故防止 (2) 薬剤からみた事故防止 (3) 輸血時の事故防止				講義	6
4	負荷状況での点滴静脈内注射 1) 業務プロセスでの演習とタイムプレッシャー下の演習 (1) 注射の指示受け－準備－実施－実施後の観察 (2) グループ討議 (3) 事故発生時の対処				演習	4
5	安全に関する知識の確認 1) 診療時の補助技術において誤りが生じやすい状況 2) 誤りを防ぐための対処法 3) 点滴滴下数・薬物の濃度・重さ一量の換算 4) 障害を起こす危険性の高い薬物とその特徴				筆記試験	2
6	安全に関する対処の実際 *トラブルを防ぐための行動がとれるか確認				技術試験	2
成績評価の方法	1. 筆記試験；50点 2. 技術試験；50点					
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2]医療安全 第2版 医学書院 2. 医療安全ワークブック 第3版 医学書院					
授業に関する留意点	1. 教科書は必ず事前に読んで、講義に望みましょう。 2. 文献を読み、課題など積極的に取り組み、医療安全についての理解をさらに深めましょう。 3. 今まで既習してきた学習内容をもとに予習復習を行い、事故防止につながる行動を身につけましょう。 4. 演習に伴う事前学習を提示します。事前学習を行い演習に臨みましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として実務経験をふまえ講義を行う。					

統合分野 看護の統合と実践

授業科目	災害看護	単位	1	時間	15	開講年次	3年次 前期
担当教員	金丸綾子 佐藤智昭						
学習目的 (ねらい)	1. 災害医療・災害看護の概念を理解できる。 2. 災害発生時の社会の活動やしぐみを知り、看護活動を理解できる。 3. 災害時に必要なケアの実際を理解できる。						
授業計画							
授業内容						授業形態	時間
1	災害および災害看護に関する基礎的知識 1) 災害の歴史 2) 災害・災害看護の定義 3) 災害の種類と種類と疾病構造、災害サイクル 4) 災害看護に関連する理論					講義	2
2	災害発生時の社会の対応やしぐみ、個人のそなえ 1) 災害に関する制度 2) 災害情報の伝達やしぐみ 3) 国内外における災害関係各機関の支援体制 4) 個人のそなえ、災害ボランティア活動					講義	2
3	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響 1) 災害時の地域アセスメント 2) 災害時要援助者への支援 3) 災害時の被災者および援助者の心理					講義・演習	4
4	災害時に看護が果たす役割、看護活動 1) 災害看護に必要な能力と基本姿勢 2) 災害サイクル各期における看護活動 3) 避難所・仮設住宅・復興住宅における看護 4) 災害時における社会資源の活用 5) 地域住民との連携 6) 災害看護研究と今後の動向					講義	2
5	災害時に必要なケアの実際 1) トリアージ 2) 応急処置・搬送					講義・演習	4
6	終講試験・まとめ					まとめ・試験	1
成績評価の方法	1. 筆記試験 2. 小テスト 3. 学習課題の提出とその内容、出席状況 4. 講義、演習の取り組みにより総合的に評価する。						
テキスト及び参考文献	1. 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院 2. いのちとこころを救う災害看護 学研 3. 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂						
授業に関する留意点	全ての対象に共通する看護実践の基礎的知識を統合した技術を学習します。 授業に臨む態度ととして以下のことを守りましょう。 1. 授業は積極的に臨みましょう。 2. 予習、復習をしましょう。 3. レポート等は提出期日を守りましょう。 4. 演習内容を踏まえて真摯に臨みましょう。 5. 演習は、事前学習を行い、積極的に臨みましょう。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として実務経験をふまえ講義を行う。						

統合分野 看護の統合と実践

授業科目	臨床看護の実践	単位	1	時間	30	開講年次 3年次 前期～後期
担当教員	三ツ野佐代子 上田平昌代 川畑晶子 植屋よしの					
学習目的 (ねらい)	1. 事例をもとに、既習の知識・技術を統合し複数の対象への看護を実践する能力を養う。そのうえ、リスクマネジメント能力、倫理的判断能力を養うとともに、卒業時に求められる能力を習得し、対象の状態に応じた総合的な判断や対応する看護実践能力を養う。					
授業計画						
	授業内容	授業形態	時間			
1	看護を実践する能力について 1) 演習のねらい 2) 演習のオリエンテーション (1) 客観的臨床能力試験 (OSCE) とは (2) 客観的臨床能力試験 (OSCE) の展開の方法 (3) 客観的臨床能力試験 (OSCE) の評価について (4) 模擬患者の役割 3) 多重問題を持つ患者の援助計画 (1) シナリオの提示 (2) シナリオ課題の取り組み方	講義・協同学習	2			
2	状況に応じた看護の実践 1) 患者の状態や状況に合った援助計画の立案・実施・評価 (1) シナリオ看護のための学力試験 (3事例) (2) シナリオをもとに看護計画の立案 (3事例の展開) (3) 看護計画をもとに、事例に即した看護技術の習得 (4) シナリオ課題を明確にして、看護の実施 (OSCE演習) (5) 看護実践の振り返り (リフレクション)	講義・協同学習・OSCE	18			
3	複数受け持ちの看護実践 1) 2人受け持ちの患者の看護実践 (1) 複数シナリオ看護のための学力試験 (2) シナリオをもとに看護計画の立案 (3) 看護計画をもとに、事例に即した看護技術の習得 (4) 多重課題を明確にして、看護の実施 (OSCE演習) (5) 看護実践の振り返り (リフレクション) (6) 実践能力の評価	講義・協同学習・OSCE	6			
4	看護技術の総合評価 1) 看護技術の総合的評価 OSCEの実施 (1) 模擬患者への看護援助の実際 (2) 実践の評価と振り返り (3) 卒業に向けた課題の明確化	講義・演習・OSCE	4			
成績評価の方法	1. 課題およびレポートの提出とその内容 2. 筆記試験・技術試験OSCE：認知領域 (学力試験) 50点、精神運動領域：実践能力35点・リフレクション5点、情意領域：10点 3. 協同学習の参加状況、文献検索など学習状況 4. 講義・演習に取り組む態度					
テキスト及び参考文献	教科書・参考資料は適宜紹介					
授業に関する留意点	全ての対象に共通する看護実践の基礎的知識を統合した技術を学習します。授業に臨む態度ととして以下のことを守りましょう。 1. 個人学習や協同学習は計画的・積極的に臨みましょう。 2. レポート等は提出期日を守りましょう。 3. 倫理的配慮や医療安全についても実践の場をふまえて臨みましょう。 4. 演習は、事前学習を行い、知識・技術・態度の専門的な向上を目指し臨みましょう。					
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ講義を行う。					

統合分野 在宅看護論

授業科目	在宅看護論実習	単位	2	時間	90	開講年次 3年次
担当教員	森川千江美他専任教員					
学習目的 (ねらい)	<p>在宅看護論実習Ⅰ</p> <p>1. 地域で生活しているあらゆる発達段階の対象理解と生活を支えている人々の取り組みの実際を理解できる。</p> <p>在宅看護論実習Ⅱ</p> <p>1. 在宅で生活しているあらゆる発達段階の対象を理解し、保健・医療・福祉活動相互の連携の重要性および看護の役割を学ぶ。</p>					
授業方法	<p>1. 実習時間 90時間</p> <p>1) 在宅看護論実習Ⅰ 30時間(月～木) 4日間</p> <p>2) 在宅看護論実習Ⅱ 60時間(月～木) 8日間</p> <p>2. 実習施設</p> <p>1) 在宅看護論実習Ⅰ</p> <p>(1) 認知症対応型共同生活介護 グループホーム燦々(さんさん)</p> <p>(2) 認知症対応型共同生活介護 グループホーム永利</p> <p>(3) 認知症対応型共同生活介護 グループホームふるさとの家「すずらん」</p> <p>(4) 地域包括支援センター いちき串木野市地域包括支援センター</p> <p>2) 在宅看護論実習Ⅱ</p> <p>(1) 訪問看護ステーションたにやま (2) 訪問看護ステーションかもいけ</p> <p>(3) なでしこ訪問看護ステーション (4) 訪問看護ステーション真砂本町</p> <p>(5) 訪問看護ステーションファースト (6) 日置市医師会訪問看護ステーション</p> <p>(7) 訪問看護ステーションさくら (8) 訪問看護ステーションせんだい</p> <p>(9) びっぐすまいる訪問看護ステーション</p> <p>3. 詳細は、実習要領参照のこと</p>					
授業計画	<p>1. 実習期間 *個々の実習進度は実習計画に従うこと</p> <p>1) 在宅看護論実習Ⅰ 30時間(4日間)</p> <p>2) 在宅看護方法論Ⅱ 60時間(8日間)</p>					
成績評価の方法	<p>1. 履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。</p>					
授業に関する留意点	<p>1. 守秘義務の遵守につとめる。</p> <p>2. 健康管理をする。</p> <p>3. 挨拶はきちんとし、明るく積極的な態度で実習に臨む。</p> <p>4. 各施設内で指導された約束事は厳守する。</p> <p>5. 曖昧な受け答えはせず、指導者に確認する。</p> <p>6. 貴重品は自己管理する。</p> <p>7. 良識と責任を持って行動する。</p>					
実務経験のある教員による実践的授業	<p>看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。</p>					

授業科目	統合実習	単位	2	時間	90	開講年次	3年次
担当教員	植屋よしの他専任教員						
学習目的 (ねらい)	1. 病棟管理や看護専門職としての役割を理解し、看護チームの一員として看護を実践することで、知識・技術・態度を統合した看護実践能力を養う。						
授業方法	1. 実習時間            90時間    12日間    (2日間は学内実習) 2. 実習施設 鹿児島生協病院、鹿児島厚生連病院、今給黎総合病院 済生会川内病院、川内市医師会立市民病院 3. 詳細は、実習要領参照のこと						
授業計画	1. 実施期間            12日間 *実習計画に準じて進める						
成績評価の方法	1. 履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面接を総合して行う。						
授業に関する留意点	1. 守秘義務の遵守につとめる。 2. 時間管理、健康管理をする。 3. 挨拶はきちんとし、明るく積極的な態度で実習に臨む。 4. 各施設内で指導された約束事は厳守する。 5. 曖昧な受け答えはせず、指導者に確認しながら業務調整を行う。 6. 良識と責任を持って行動する。						
実務経験のある教員による実践的授業	看護師として豊富な実務経験をふまえ実習指導を行う。						